

第7回FD研修会報告書

2010.3

FD 委員会

金沢学院短期大学

目 次

開催にあたって 一本学の FD 活動—	FD 委員長 岡島 厚	1
I. 平成 21 年度文部科学省学生支援 GP 取組報告	河内久美子 可部野和子	5
II. 本学の就職支援体制について	就職支援センター長 島崎外志夫 就職支援センター参与 宮崎勝一	15
III. 「本学の教育改善」に関する“ポストイット”を用いたグループ討論		19
グループ A：就職意識を向上させるには	西野喜美子	
グループ B：就職を有利にするための資格・検定	可部野和子	
グループ C：キャリアプランニングの授業内容改善	川村昭子	
グループ D：就職支援講座（学力・マナー）	國田千恵子	
質疑・応答		
質疑・応答（全体として）		33
IV. 就職支援に関する研修・グループ討論の総括	就職委員長 野村孝弘	35
閉会の挨拶	FD 委員長 岡島 厚	41
資料 1 平成 21 年度後期 授業改善のための学生アンケート集計結果		45
資料 2 平成 21 年度 金沢学院短期大学の教育改善に向けた卒業時アンケート集計結果		55
資料 3 第 7 回 FD 研修会 参加者アンケート集計結果		77

開催にあたって
-本学の FD 活動-

FD 委員長 岡島 厚



開催にあたって

ご承知の通り、本年度は“就職氷河期”と云われ、なかなか学生の就職が思うように決まらず、学生自身はもちろんのこと、教職員のご苦勞は並大抵ではない。また、平成23年度（平成23年4月1日）から短期大学設置基準が改正される。短期大学は、生涯を通じた持続的な就業力の育成を目指し、教育課程の内外を通じて社会的・職業的自立に向けた指導等に取り組むこと、また、そのための体制を整えることが必要であることがその改正の趣旨である。そこで、本学では、就職支援に新風を吹き込むために、大学教育・学生支援推進事業GP取組として「“就職をバックアップする学士力強化元気プロジェクト”学生支援プログラム」を申請した。幸い受理され、平成21年度から2年間実施中である。本日は、まず、上記の学生支援プログラムについて河内久美子教授と可部野和子准教授から中間報告をしていただく。次に、「本学の就職支援体制について」就職支援センターより島崎外志夫センター長および宮崎勝一参与から現状報告を受ける。

本学では、「就職支援」について、昨年3月開催のFD研修会における“ポストイット”グループ討論でも議論した。これらの議論を踏まえて、既に本学FD研修会では恒例となっている“ポストイット”によるグループ討論のテーマとして、「本学の教育改善：就職支援についての具体策を考える」を取り上げた。

本日のFD研修会には、石田寛人学長、槻木 裕次期学長にご出席をいただいております。本学はこのような厳しい就職氷河期をどのようにして乗り切っていくか、教職員および法人の方々一緒になって考えたい。

(岡島 厚)

短大のFD活動の取組み

今迄に取り組んできた主なFD活動内容は、次の項目である。

(1) これまでに経典的になったFD活動

1. FD研修会の実施
⇒ 平成18年度後期から年2回、学期ごとに実施、報告書の刊行。報告書は短大ホーム・ページに掲載。
2. 学生による授業評価アンケートの継続的实施
⇒ 平成18年度後期に試行実施の後、平成19年度から年2回、学期ごとに実施。結果の概要は短大ホーム・ページ、研修会報告書に掲載。
3. 教員相互の授業参観
⇒ 平成21年度から実施、報告書（保存）

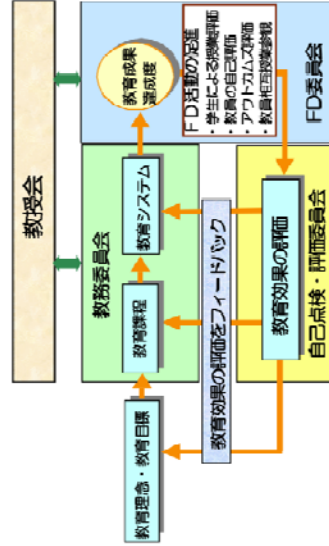


(2) これからの実施項目

8. GPA (Grade Point Average) システムの実施
学習ポートフォリオ ⇒ 教務委員会
9. 3つの方針の制定 ⇒ 教務委員会
① 入学者受入れ方針（アドミッションポリシー）
ホーム・ページに掲載
② 教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）
③ 学位授与の方針（ディプロマポリシー）
10. 学生の就業力の育成を目指して教育の構築
⇒ 就職委員会、教務委員会



4. 初年次教育の充実を図る仕組みの策定 ⇒ 教務委員会
5. 本学の教育理念の具体化：「良識と礼節」を学生に日常的に植え付ける取組み ⇒ 学生委員会
⇒ 平成20年度から大乗寺坐禅研修を実施、報告書刊行。
6. 卒業時の本学教育の達成度・満足度の評価
⇒ 平成18年度から卒業時アンケートを実施。結果は研修会で報告、研修会報告書に掲載。
7. 卒業生の本学教育の達成度・満足度の評価システムの構築
⇒ 平成21年度卒業生の実態調査を開始。
8. GPA (Grade Point Average) の試行 ⇒ 教務委員会
⇒ 平成20年度から試行として実施中。



授業改善のためのPDCAサイクル

FD研修会で検討した教育評価結果を実際の教育現場にフィードバックするために、教務委員会、FD委員会、そして自己点検評価委員会は、互に示す関係をもって活動している。

平成21年度文部科学省学生支援GP取組報告

河内久美子


可部野和子





金沢学院短期大学
学生支援プログラム
Communication Presentation Centre


平成21年度「大学教育・学生支援推進事業」
【テーマB】学生支援推進プログラム
就職をバックアップする学士力強化元氣プロジェクト



金沢学院短期大学
学生支援プログラム
Communication Presentation Centre

金沢学院短期大学は文部科学省
平成21年度 学生支援推進プログラム【テーマB】
に採択されました。

取組名称
就職をバックアップする
学士力強化元氣プロジェクト
学生支援プログラム



金沢学院短期大学
学生支援プログラム
Communication Presentation Centre

文科省へのGP申請

平成18年度 「特色ある大学教育支援プログラム」
取組名称： 一人一技教育～金沢の生活文化を活かす～


平成19年度 「特色ある大学教育支援プログラム」
取組名称： ふるさと創造教育～金沢の生活文化を活かす～

平成19年度 「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」
取組名称： 創造性あふれる栄養士養成の試み

平成20年度 「質の高い大学教育推進プログラム」
取組名称： ふるさと創造教育
～色彩情報で知る金沢文化の再発見と継承～

平成21年度 「大学教育・学生支援推進事業【テーマA】
大学教育推進プログラム」
取組名称： KGCホールとe-教育を用いた教育改善

平成21年度 「大学教育・学生支援推進事業」【テーマB】
学生支援推進プログラム」
取組名称： 就職をバックアップする学士力強化元氣プロジェクト



金沢学院短期大学
学生支援プログラム
Communication Presentation Centre

取組の趣旨
就職率の回復と
求職中卒業生のスキルアップを図る。

内容
学内で定期的に特別講座を開催、
就職に向けたCPC力を養う。

金沢学院短期大学
学生支援プログラム
Communication Promotion Center

CPC力は？ **C P C**

C
Communication
意志の疎通力

人と人とのつながりを大切にできる。
相手の意図を正しく理解する。
自分の意見を論理的に話せる能力を磨くことで、
社会に求められる人間力を培う。

金沢学院短期大学
学生支援プログラム
Communication Promotion Center

CPC力は？ **C P C**

P
Presentation
理解力・提案力

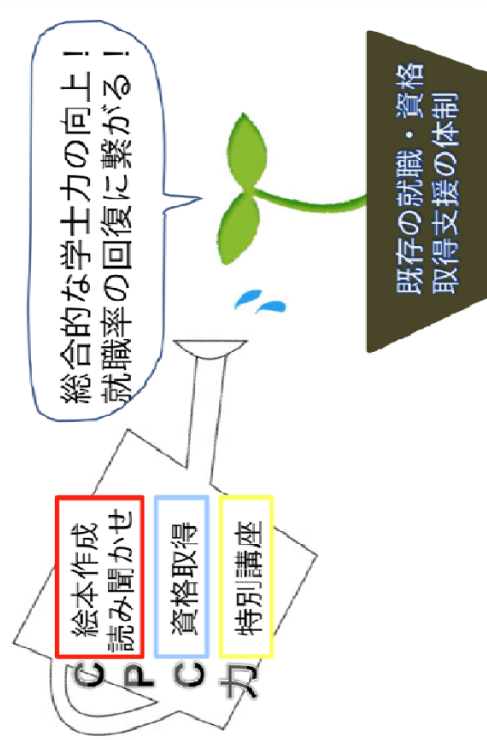
情報の送り手(報告者)が受け手(聞き手)に対して、「情報」や「提案」を正確に、かつ効果的に伝達する力を身につける。

金沢学院短期大学
学生支援プログラム
Communication Promotion Center

CPC力は？ **C P C**

C
Creative
創造的思考力

問題に直面したとき、新しく、有意義な
着想を生み出す思考を養う。



金沢学院短期大学
学生支援プログラム
Career/Placement Center

21年度 取組の内容

- ① 卒業生の連絡先、就業状況等を追跡、**潜在的労働力情報を更新**
- ② CPC推進室を新設し、備品を充実させ、グループ活動に適した工房環境を整備し、**絵本を制作**
- ③ 特別講師を招き、**講座**を開く
- ④ 絵本展を開催し、**出張読み聞かせ**リクエストに応じる。
- ⑤ 本取組HP作成

9

金沢学院短期大学
学生支援プログラム
Career/Placement Center

21年度 取組の内容

- ① **卒業生情報の更新**

アウトカムズ調査で得た連絡先情報をもとに、石川県在住の生活デザイン学科の卒業生情報を更新

CPC推進室の設置



Windowsパソコンの設置



グループ活動用 テーブル

CPC推進室の設置



利しゅうミンシンの設置



就職に関する参考図書の設置

専任スタッフを配置



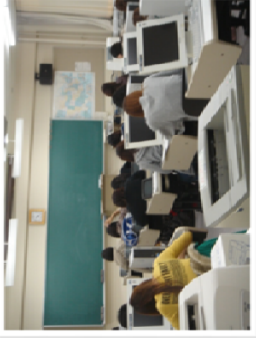

平成14年度卒業生 中川 裕子

平成19年度卒業生 田村 愛美

利用風景

利用ができる時間

平日 9時～17時
土曜 9時～13時
(第1、第3のみ)

利用状況

講座利用

講座	人数
パソコン文庫	40
検索	1
講義回収	3
人数	44

検索の100%を駆ってみよ
二階

CPC推進室利用者数

月	12月	1月	2月	3月	合計
黒色(人)	12	11	11	11	45
赤色(利用希望)	0	5	16	4	25
青色(利用希望)	40	58	56	52	206

絵本作成の様子




次の写真

金沢学院短期大学
学生支援プログラム
Continuation / Persistence Center

講座

絵本作成の様子




金沢学院短期大学
学生支援プログラム
Continuation / Persistence Center

講座

ビジネス文書検定資格取得支援講座

11月25日, 12月2日 16:40~18:10

講師 國田 千恵子 教授



金沢学院短期大学
学生支援プログラム
Continuation / Persistence Center

講座

就職DVD上映会

DVD 「就職活動のすべて」を上映
開催 1月18日~1月22日

上映回数 10回
来場者数 35人




金沢学院短期大学
学生支援プログラム
Continuation / Persistence Center

講座

刺しゅうミシンをつかってみよう!

3月3日(水) 13:20~16:30 ミシン講座

特別講師
平成19年度
AF卒業生
小西 麻美
(兼中川ミシン商会)



金沢学院短期大学
学生支援プログラム
Graduate Promotes Center

講座

刺しゅうミシンをつかってみよう！

3月3日(水) 13:20~16:30 ミシン講座

特別講師
平成19年度
AF卒業生
小西 麻美
(株式会社ミシン商会)




次の写真

金沢学院短期大学
学生支援プログラム
Graduate Promotes Center

懇談会

3月3日(水)
16:40~19:00 卒業生懇談会
卒業生を交えての懇談会を開催




金沢学院短期大学
学生支援プログラム
Graduate Promotes Center

えほんカフェ

日時:3月29日(月)13:00~18:00
場所:どんぐりの木 無料
〒920-0855
石川県金沢市武蔵町16-19
TEL.076-255-1678

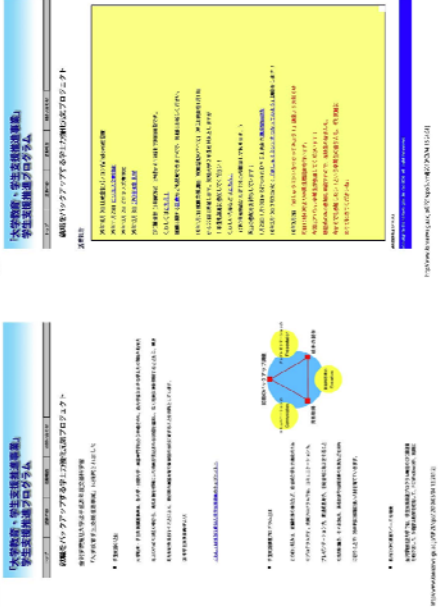



金沢学院短期大学
学生支援プログラム
Graduate Promotes Center

専用HPの開設

大学教員、卒業生関係者、卒業生支援プログラム

就職ハイクラス等、就職支援プログラム





就職状況

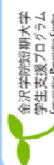
平成20年3月2日 調べ(申請時)
 最終学年在籍の学生の就職率 78.0%

平成22年2月28日 現在
 最終学年在籍の学生の就職率 61.7%
 内訳 生活デザイン学科 40.9%
 食物栄養学科 80.0%



平成21年度
 大学教育改革プログラム合同フォーラム
 日時：平成22年1月7日(木)8日(金)
 場所：東京ビッグサイト会議棟

平成21年度
 新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム
 大学教育・学生支援推進事業(学生支援推進プログラム)
 意見交換会 東海・北陸地区
 日時：平成22年3月10日(水)
 場所：キャッスルプラザ4階「鳳凰の間」



今後の展望

- コンピュータソフトの充実
- Macintoshの導入
- 教職員のキャリアアップ研修
- 卒業生を交えた各種講座の開催
- 絵本の作成と読み聞かせ

平成22年度で事業終了
 就職支援体制の強化
 めざせ！100%の就職率



本学の就職支援体制について

就職支援センター長 島崎外志夫

就職支援センター参与 宮崎勝一



本学の就職支援体制について

はじめに

一昨年のリーマンショック以降の不況から、学生の就職市場も「売手」から「買手」市場に一転しています。このような情勢下、文部科学省では短大設置基準を改め、学生が卒業後社会的、職業的自立を図れるよう、指導を行うことが学校に求められています。また、先日開催された石川県短大就職担当者懇話会では、就職活動が早期化していることへの対処を求める意見もありました。本年度も、就職支援センターでは新しい取り組みを含め、学生への就職支援を強化したいと考えており、ご協力をお願いします。

1. 就職をめぐる状況について

(1) 企業側

依然として採用意欲は低調であり、就職サイト開催の合同企業説明会への参加企業は昨年より減少しているが、優秀な学生を確保したいという動きもあって、採用活動は前倒し傾向となっている。応募学生が増加していることもあって、選考は厳しい。

(2) 学生側

企業へのエントリー数が昨年度比1.5～2倍、説明会の参加予約が殺到し参加できない学生が生じるなど、動きが非常に活発化している。

また、地元・安定志向が強まっていることから、Uターン希望者の増大や四・短大生が競合する就職試験が増えるなど、短大生の就職をめぐる状況は厳しさを増している。

2. 企業の求める人材

不況下でも、求められる能力は、コミュニケーション能力、自分で考え行動できる力、基礎学力などほとんど変わっていないが、前向き・積極性も重視される。

一方、学生が就職活動で困っていることは、自己PRや志望動機の作成などが多く、自己分析や企業・業界研究への探求が弱いまま、就職活動を行っていることがうかがわれる。

3. 本学の就職支援体制について

キャリアプランニング等の授業の他、就職支援センターでは学内合同企業説明会の開催、HPでの求人閲覧、メールでの就職関連情報の提供を実施している。センター内では、関連情報の展示・閲覧、応募書類の書き方・電話の架け方指導、模擬面接、各種相談など個々の学生のニーズに対応した就職活動支援を行っている

4. 就職支援センターから見る課題・問題点等

競争を否定していた「ゆとり教育」から、競争の「就職活動」に直面し、学生が戸惑っているケースもある。総体的にまじめだが、学習意欲は低く基礎学力も低い。また、学ぶより教わるという、消極的な傾向がある。就職に関する意識も弱く、企業の事業内容・職種の検討が不十分なまま、知名度の高い企業のみへの応募を続けミスマッチングとなり、就職活動が長引いたり、未就職となることもある。

「本学の教育改善」に関する “ポストイット”を用いたグループ討論

全教職員



グループA：就職意識を向上させるには

1. 参加者

ファシリテーター：西野 喜美子（就職委員）

メンバー：槻木裕、岡島厚、平木孝志、松井良雄、渡辺直勇、宮田亮
相良多喜子、山岸和子、種井由佳、江尻智恵子

2. 討論の概要

(1) 個人作業による問題点の提起ならびに問題点のカテゴリライズ

参加者から提案された問題点を関連性・類似性に基づいて討論し、以下の4項目に分類してそれぞれタイトルを付けた。

①学生の就職意欲について

- ・就職＝自立という意識が薄い
- ・自己認識がない
- ・自分の将来について不明確のまま入学してくる
- ・就職とアルバイトの認識のずれ
- ・経済的困窮の経験ない
- ・就職支援センターに行かせることが難しい

②基礎学力について

- ・社会情勢の把握に乏しい
- ・新聞、ニュースを見ない
- ・基礎学力が低く授業についていけない

③コミュニケーション能力について

- ・大人の会話ができない
- ・その場の空気が読めない
- ・就職活動中に企業へ電話で連絡ができない（電話の仕方が解らない）

④心のケアについて

- ・就職活動前後におけるカウンセリングが必要
- ・カウンセリング専門員がない

(2) 改善したい課題についての対策

次に本グループの中心課題「学生の就職意欲を向上させるためには」についての解決策
上記課題の中から、学生の就職意欲についてとコミュニケーション能力、心のケアを中心に
以下の2項目に分類した。

①就職について実態把握をする

- ・学生にいろいろな体験をさせる（早期の大規模合同説明会参加等）
- ・興味のある企業情報の収集等自分でさせる
- ・社会人との会話の場をセットする
- ・企業研究を授業の一部に取り込む
- ・卒業生の就職先、仕事内容を理解するために、分かり易い資料を作成し配布する
- ・卒業生を招いて仕事の内容を知る
- ・正規社員とアルバイトの違いを明確に説明する
- ・模擬面接の強化
- ・親離れ教育をする
- ・経済動向や社会的教養を講義する

②就職しない学生の支援

- ・就職する必要があるという学生にどう対応するか
- ・自分のやりたい仕事解らない、試験に合格しない学生にカウンセリングが必要
- ・就職を希望する学生、しない学生をクラス分けして指導する
- ・短大は女子学生が多く自分の将来についてどのようにガイダンスするか

3. 結論

(1) フリーターキングおよび提案された解決策の要約は以下である。

① 就職について実態把握をする

- ・企業先輩との座談会を開催し学生が直接対話できる形式で社会情勢、企業で働くことの実態を把握してもらう
- ・模擬体験（電話のかけ方、言葉使い、文書作成等）について実施する。

② 就職しない学生の支援

- ・就職カウンセラーの設置で総合的に精神的心のケアを行い、きめ細かく支援する
- ・入学当初から保護者懇談会を開催し、保護者の協力を得るとともに学生の就職意識も高める。

(西野喜美子)

グループB：就職を有利にするための資格・検定

1. 参加者

ファシリテーター：可部野 和子（就職委員）

メンバー：藏角 利幸、山岸 政雄、小林 淳一、二階堂 修、栗津原 理恵、茶谷 徳靖、
島崎 外志夫、春名 亮

2. 討論の概要

就職を有利にするための資格・検定において問題点や改善点などを出し合い、意見を交わした。結果、2項目に分類された。

(1) 就職に有利な具体的な資格・検定名称

- ・コンピュータ関連（ワープロ・表計算）の検定
→ 誰でもできる時代だと言いつつも必ずしも皆ができるものではないので、履歴書に記載することによりコンピュータができることをアピールできる。
- ・コンピュータ関連（グラフィック・CG・Webなど）の検定
- ・数学、算数、計算、ソロバン関係検定
- ・簿記関係検定
- ・実用英語技能検定
- ・日本漢字能力検定
- ・色彩検定
- ・国家公務員
- ・宅地建物取引主任者資格

(2) 本学短大生として資格・検定よりも、手に入れて欲しい大切なものがある。その具体例。

- ・あいさつや礼儀を身につける
- ・コミュニケーション能力を高める
- ・基礎学力の向上を図る
- ・資格、検定は就職の目的に応じて必要か不必要かが変わるので、大雑把でも目指す目標を決めるのが先決
- ・資格、検定の重要度（順位付け）の必要性
- ・資格、検定の支援に際しての問題があるので、有利になることばかり考えられない。
- ・資格、検定は就職に意味があるのか

(3) その他

- ・清鐘台奨学金を目標に資格を意識させる
- ・授業内容の有効性として資格へ直結させること
- ・相手を如何にだますか？（プラスに考えての）の能力を極める
- ・就職は同時多発で、よいところ取りを願うことこそ不利に傾くことを知らしめねばならない

3. 結論

一定の共通認識が示され、問題点は以下の5項目にまとめることができた。

- ① 資格を取得できる学生は上位の一部の学生になるので、基礎学力を向上させるための教育をした方が良いのではないか。
- ② 資格・検定よりも就職に大切なコミュニケーション能力・礼儀・協調性などの力をつけることの方が重要ではないか。
- ③ 難しい資格に対して就職支援センター・授業あるいは授業時間外などにおいて、対策講座が必要ではないか。
- ④ 資格・検定支援に対して短大での対応を決めるべきではないか。
- ⑤ 全学あるいは学科規模で目標を設定し達成することにより、やる気を出さすことができるのではないか。

<具体的提案>

この中から、平成22年度から実行可能な ② 資格・検定よりも就職に大切なコミュニケーション能力・礼儀・協調性などの力をつけることを提案する。

<ファシリテーターより>

同じFD研修会でGP取組報告であったCPC力向上講座に21年度は行なっていなかった礼儀という項目の講座を22年度の早い時期で全学2年生対象に開講し、就職活動に、大いに役立ててもらいたい。

(可部野和子)

グループ C：キャリアプランニングの授業内容改善

1. 参加者

ファシリテーター：川村昭子（就職委員）

メンバー：河内久美子、加藤哲郎、清水里美、R.M.カニンガム、山本有希、細川亮弥、
廣根礼子

2. 討論の概要

就職支援や就職指導上・授業での問題点などについて、それぞれが気づくことを書き出した。その内容を関連性・類似性に基づいて分類すると、「就職意識」「授業内容・単位」「その他」の3項目になった。

(1) 「就職意識」について

- ・ 目的意識に乏しい。
- ・ 何のために学ぶのか、就職するのか。
- ・ 現状把握、自己分析に乏しい。
- ・ 就職活動や講義内容について「自分が何が分かっていないのか」が分かっていない。
——→ 自分の実力を知らない。
- ・ 就職に対して問題意識や危機意識がみられない。
- ・ 就職は何とかするという考えで、危機感を持たない。
——→ 1回の試験で落ちても、再試験があるというように。
- ・ 自分がどのようなこと(何)に向いているのか、見当もついていない。
- ・ 就職するのか、しないのか意思決定がしていない。
- ・ 就職ということに対して自覚を持っていない。
- ・ 就職ということを自分の問題としてではなく、他人事のように思っている。
- ・ 就職メール登録をしても、配信情報を見ない。

(2) 授業内容・単位として

- ・ 学科によって就職先が全く異なるため、学科別活動を増やした方がよい。
- ・ 大学のようにグループ単位活動をいれてはどうか。
- ・ 授業としてでは、時間が足りない。
- ・ 授業として時間が足りない場合、新しく授業科目を開設あるいは課外で行う。
- ・ 個々の学生に対応しきれない。
- ・ 企業研究だけでなく、職種研究の進め方について指導。
- ・ 模擬体験をしてはどうか。
- ・ 企業見学は必要か。
- ・ 企業見学は別の時間帯、課外で行う。
- ・ 授業内容をしっかり聞く学生は、半数以上いない。

- ・本学の学生は、依頼心が強い。

(3) その他

- ・一般常識以前の常識がない。
——→ 電話の掛け方や対応の仕方、携帯電話等の不適切な呼び出し音設定、手紙（資料請求、応募書類の提出、内定後の礼状など）や封筒の書き方、言葉遣いなど
- ・春休みや2年前期の指導ができない。

3. 結論

いろいろと議論されたが、結論として具体的な改善策や提案は、次の3項目があげられた。

(1) 「就職意識」を高める

- ・目的意識を持つような授業内容にする。そのためには、仕事とは何か。なぜ人は働くのかについて、意識づけを徹底的に行う。
- ・就職を考えていない学生に対して、就職する利点を具体的に教える。
- ・現状を把握し自己分析ができるように。
- ・DVDを活用し、就職に対する意識を早い時期に持たせる。
- ・職業や職種のイメージ強化。

(2) 受動から能動へ

- ・本学の学生は依頼心が強いので、「教わる」から「何事も自ら学ぶ」という姿勢、意識への転換が必要である。
- ・「自分で調べる」意識を高める。そのためには、グループで検討し、発表させ、さらに自ら調べ、自分の意見をレポートに仕上げ、発表させる。

(3) グループ分けの導入

- ・学科やグループに分けた小単位でのメニュー（計画）を入れる。「卒業生・内定者に聴く」やWebクラスなどの検討。
- ・「卒業生に聴く」の講座では、企業先輩（若い卒業生だけではなく、ベテランの方）の話聴く機会を持ち、さらに、座談会・懇談会を開催すると効果がある。
- ・企業見学はそれぞれの学科・系別にあった企業を選び、授業時間内で無理なら別の時間帯、課外で行うと効果がある。

(川村昭子)

グループD：就職支援講座（学力・マナー）

1. 参加者

ファシリテーター：國田千恵子（就職委員）

メンバー：高瀬孝子、田畑圭介、山瀬泰吾、野村孝弘、森田一雄、森田由香

2. 討論の概要

(1) 就職支援講座（学力・マナー）に関する問題点の提起とカテゴライズ

短大生の厳しい就職状況と企業が求める人材、就職支援センターからみる課題・問題点等を基に、グループDでは、今、どのような支援が最も必要なのかに絞り、問題点や気になる点を出し合った。結果、以下の3項目に分類された。

①基礎学力

- ・基礎学力（特に算数・初歩の数学）の不足。
- ・基礎学力をいかに高めるか。（高校の研究が必要）
- ・これまでの学校生活の中で、学習習慣が身につけていない。
- ・基礎学力をつけるため、授業の中に就職試験の内容を入れるなどの検討。
- ・基礎科目（算数・国語・社会）などの充実。
- ・授業を全回出席すべきものだと考えていない。
- ・マナーが定着していない。情報を与え、ある程度の知識があっても、自分のこととして実行しないため、身につけていない。
- ・日常の授業の中で基礎的学力・常識が足りない学生が多い。それに、教員が気づいた場合は、対応した授業内容にすることができる。が、気付かなかった場合、授業内容が難しく、学生は理解できないことになる。

②参加型授業による主体性の育成

- ・グループディスカッション教育。発信できる学生を育てる。
- ・教員一人では、学生の個性、性格などの見極めが難しい。複数教員が参加して、学生の見極めとカウンセリングを行う。参加型授業を考える。
- ・学生が実際に参加し、体験できる機会を増やす。
- ・技術指導ではなく、意味指導。
- ・就職試験を受けるということが、企業や人事担当者を尊重することだと理解していない。（相手は物ではない。相手をもっと尊重すべき）
- ・カリキュラムや授業内容を見直し、強化すべき点（コミュニケーションの育成など）は、関連科目を受け持つ教員が連携をとって行う必要性を感じる。

③個別対応

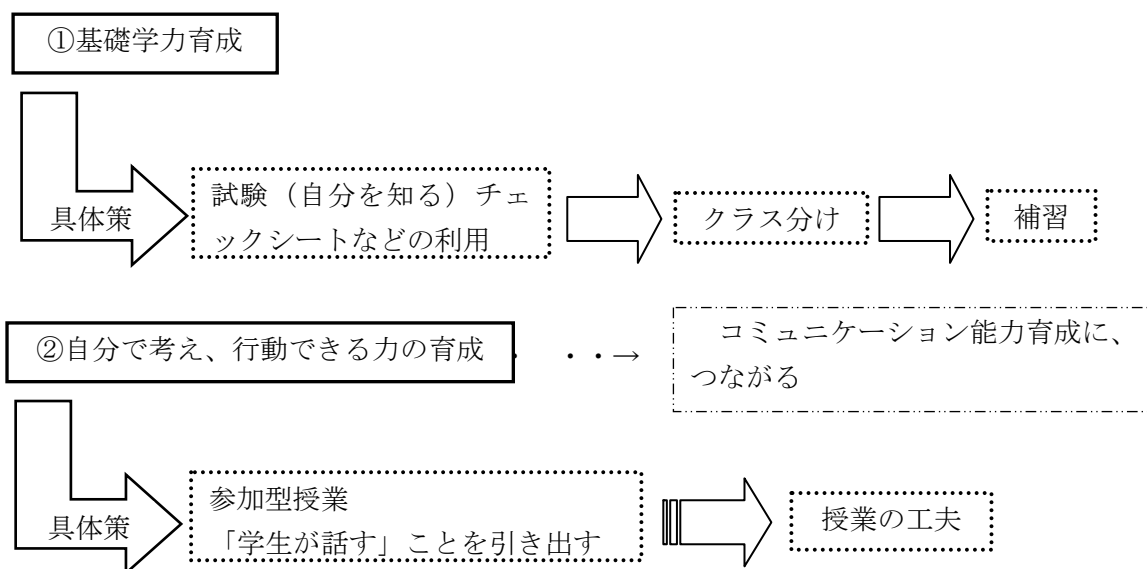
- ・就職試験に失敗すると、就職意欲だけでなく、自信も失ってしまう。自信をなくした学生への対応が必要。また、何がやりたいのかが分からない学生の対応も必要なので、キャリアカウンセラー置く。
- ・就職支援に関しても、学力向上についても、結果の平等ではなく機会の平等が重要である。

指導方法の多様化に対応する。

- ・教員側が学生に理解してもらいたい、知ってもらいたい項目を並べ、学生にチェックさせる。
学生に、どこまで分かっているのか、知っているのかを気付かせる。

3. 結論

就職内定率向上のための就職支援講座を考える上で大切なことは、企業が求める人材の育成である。本学学生が抱える問題点と企業が求める人材を照らし合わせ、優先順位を考え、就職支援に必要な具体策を討議した。結果、次の二つの策が提案された。



以下、討議の際に出された個々の意見を記す。

①基礎学力の育成について

- ・入学前（時）に学力テストを行い、課外授業で本人の実力に応じた付与に努力する。
- ・英語、国語のレベル別授業を活用する。レベルに応じて毎週クラスを替える。
- ・授業で必要な知識を洗い出し、その部分を補強、学習させる。また、その学力の必要性を認識、自覚させる。
- ・「常識育成クラス」（「学力」とすると、露骨すぎる感じがする。常識のない学生もおり、常識も身につけてほしいので、名称は「常識育成クラス」とする）で、基礎学力もレベル別に扱う。
- ・リタイアした東高校の先生に5限目、補習をお願いする。

②自分で考え、行動できる力の育成について

- ・朗読の時間を設け、声を出すことから始める。
- ・まず「参加して得をした」感を持たせる。そして、それに関する発展項目を考えておく。つまり、「得したこと」の先に、教育的に意味のある（学生に学んで、身につけてほしい）内容を設定できることが望ましい。
- ・GPの「絵本作り」をグループで行わせる。
- ・自主的なグループ学習で、学生に様々な経験をしてもらう。

<ファシリテーターより>

Dグループでは、企業が求める人材の育成にあたり、不足している（早急な対応が必要だ）と思われる点に絞って討論した。したがって、インターンシップのプレ指導、マナーに関しては、あまり触れていない。

本学の学生は「自信が無く、自己肯定感が低い」といわれる。グループでは、基礎学力を向上させることで自己肯定感を高め、熱意とバイタリティ溢れる学生の育成策を探った。結果、基礎学力の育成には、自己認識（自己分析）が必要であること、そして、習熟度別による個別対応が重要であるという考えにまとまった。また、「自分で考え、行動できる力」の育成には、参加型授業などの工夫が必要であり、さらなる授業改善が求められていることを認識させられる機会となった。

（國田千恵子）

質疑応答（グループ討論）

<A グループに関して> <C グループに関して>

質疑なし

<B グループに関して>

岡島先生

2つ質問があります。1つめは結論項目4番目の「資格・検定支援についての短大の対応を決めるべき」とあるが、これはポジティブな意味なのかネガティブな意味なのか教えてください。そしてもう1つは資格・検定試験を受けることはネガティブなことなのか、やはりコミュニケーション能力の方が必要ということなのか、この2つを教えてください。

可部野先生

どちらもプラスの方向で取ってください。1つめの「資格・検定支援についての短大の対応を決めるべき」とは、全体的に資格支援センターの教職員が、一定の立場で学生に接すると言うことが1つです。そしてもう1つはコミュニケーション能力が必要なのは、資格を軽視しているわけではありません。コミュニケーション能力をしっかりとつけてから学ぶべきなのではという考え方です。

野村先生

就職指導部と就職委員の先生方が、学生の持っている資格を知らなかったこともかつてはありました。しかし今はそんなことはない、情報を共有しプラスになっています。

山岸先生

4の「資格・検定支援についての短大の対応を決めるべき」についてですが、短期大学でデザイン学科に来る学生は、デザインを学びたくて来ます。大学・大学院であろうとデザイン学科に来る学生は、デザインを学びたくて来ているので、まずはデザインを学ばせるべきです。色彩検定なんてのもありますが、デザインを勉強するためにはどうしても学ばなければいけないのならわかりますが、それだけ、そういう資格を取ることだけでは困ります。デザインの勉強からさらに一生懸命がんばって資格を取るのが筋なんです。こちらとしては到達目標、レベルを定めて学生ごとに提示してあげることが必要です。級のこともあります。そういう意味での対応のこともあると思います。

岡島先生

つまり一番に、まずは基礎力を付けてということですよ。

野村先生

そうです。自分の道を見失わず、その上でのエクストラとして資格があるという認識です。

<Dグループに関して>

松井先生

具体的には新しい科目をつくることになるのでしょうか。リメディアル・導入科目をつくっていくことになるのか教えてください。

國田先生

そうです。

野村先生

国語・数学・算数と言ったそういう話になります。短大の、短大としてのフォローアップの特殊性は、支援センターだけをお願いするべきことではないと思うのです。例えば、他の短大は非常に工夫しているところもあります。先生方の企業訪問もありますし、就職カウンセラーを設置することで学生の悩みを聞くような配慮もあります。また、声を出すことや、それによってコミュニケーション能力を高めることもしていると聞きます。

質疑応答（全体として）

<GP報告、就職支援センター報告について>

蔵角先生（質疑）

可部野先生、島崎センター長、宮崎参与、良いお話をありがとうございました。

GPで就職支援をしている部分で足りない部分、付け加えてもらいたいことを少しお話させていただきたいと思います。

取り入れていただきたいことの1点目は、学生に企業研究や企業へのアプローチをさせる。小売、卸、公務員、メディアなど、いくつかの職業について共同研究をさせ、発表させる。コミュニケーション能力が伸ばせると思います。金沢工大では、発表できなかった学生もできるようになり、発表能力が身に付いたと聞いています。

次に、就職支援センターと学生の関係を強めるために、やはりGPを活用されると良いと思います。就職支援センターの敷居が高いという学生がいます。GP活動の中で、企業へのアプローチをしたりするやり方を就職支援センターで教えてほしいと思います。

また、エントリーシートや履歴書の書き方もキャリアプランニングで話をしているが、人数が多すぎて、個々の問題としてとらえていない学生が多いように感じられる。やはり、GP活動の中で、先生方がもう一度教える。CPC支援室にはり付いて、〇月〇日は、〇〇先生が居て指導してくれる、という形にして行ってはどうだろうか。

最後に、就職支援センターには、地方などの公務員試験に合格できるよう、何年計画かのスパンで身につけさせる講座を開いてほしい。警察、消防、自衛官でも良いので。

河内先生（応答）

ご提案ありがとうございます。ただ、今回ご報告した文部科学省採択GPについていえば、既に一つの実践プログラムを申請したものであって、この中に新たな内容を次々加えていくというものではありません。GPは学校全体で取り組みたいものです。ご提案いただいたように、就職支援センターとのパイプをつくる、学生にグループで企業研究をさせるなど、この後のグループ討論の中でも考え、プログラム開発のアイデアを出し合い、ぜひ新たなGPとして申請していければと思います。

<全体総括・支援センターへの質疑応答>

二階堂先生（質疑）

就職に対する態度が、今の1年生と2年生で違うとしていましたが、どう違うのか、そしてその理由は何だとお考えになるのか、サジェスションをお願いします。

島崎部長（応答）

実際に合同企業説明会では、参加学生が7-8ポイント上昇しています。一昨年から危機感を持っていることの表れが、早い準備に出ていると思います。もちろん先生方の努力もあると思いますが。

二階堂先生

常に駄目な状態の子はどうか。モラトリムなお嬢さんは熱意がありません。親がそのうち亡くなるという考えはないのです。そういう子を起こすにはどうすればいいですか。

島崎部長

意識の無い学生は確かにいます。サポートしていても最後の決断は本人です。サポートとしてやっていることは1%で、後は本人の決意を押し姿勢が大切と思います。

野村先生

学生の背中をちょっと押す、その押し方が非常に難しい。上手に押すこと、そしてどんなふう
に押しただらいいのかと言うことは、学生ごとに違ってきます。

島崎部長

学生本人と言いますか、一人ひとりのカウンセリングを通して性格の隅々まで知らないとなり
ません。しかしそこまでの時間は割けないのも確かです。でもそうだからどうしようもないと言
っても始まらず努力しなければなりません。解決策はないけど悩みは常にあります。ですから先
生方のお力添えが必要になってきます。

野村先生

支援する学生一人ひとりのキャラクターを認識するのは、濃く交わる先生方です。そういった
先生方が関係を密にして就職支援をしていくことが大切なのではないかと思えます。先生方は結
構得られたそれぞれのキャラクターを認識されているので、今度はそれを就職にも活用させてほ
しいです。



就職支援に関する研修・グループ討論の総括

就職委員長 野村孝弘



就職支援に関する研修・討論のまとめ

本日は第7回FD研修会で就職支援を含めた学生支援を取り上げていただき誠に有り難うございます。就職支援もやっとな教育の一環として認められたような気がして大変うれしく思っております。

爛熟した社会では人の就業意欲がいくらか希薄になる傾向が有ります。すでに日本の社会は平和になって、大学や短大卒業生の中には就職したくないという者も少なからず現れるようになって来ています。これは社会的問題を含んでいるので文部科学省も看過できなく、補助金を付けてこれに取り組むようになって来ていると考えられます。今回の研修会で可部野先生がご発表になられた本学のプロジェクトも、今春から導入されようとしている学生支援ポイント制度もその一環と考えることが出来ると思います。はじめて就職委員長として就職指導部に参りました時は「学生の指導の前に私を指導いただきたい」とお願いいたしました。一般的な就職活動の経験が全くない者が就職委員長として学生の指導が出来るのだろうかと不安があったからです。私が学生だった頃は、「大学は学問を教えた。あとは自分たちで自らすすんで道を開け」というのが大方で、多くの大学は学生の入学には熱心だが卒業にはあまり熱心でなかったように思っています。さて、就職指導部の指導よろしきを得て「大学にも出口教育が必要だ」という認識をいたしました。そして、当時はじまったプレゼミナールで就職支援メニューを考えました。当時の就職委員の先生の中には「就職支援は教育なのかサービスなのか」と異議をもらされた方もいらっしゃいました。今でも同じような意識の先生もいらっしゃるかも知れませんが、今後は一致して就職支援は教育のひとつであるのご認識いただけると確信しております。

さて現在の本学の就職支援については、今回の研修会で支援センターの島崎センター長と宮崎参与にご報告いただきました。そして現今明らかになったことは、2008年のリーマンショック以降就職戦線は完全な買い手市場になってしまったということです。その結果、1)短大生と4大生の区別がなく求人される。つまり、全体の採用予定ワクはあるが短大生の採用予定数は知らされてなくなっている。2)学生は企業説明会にアテンドしてエントリーを受け付けてもらって初めて就職戦線に参加できるが、エントリーの時期が早くなってきている。これらのことは、短大生の競争相手は4大生であるということを意味しています。ここで困ったことは、4大生は大学3年の時から本格的に就職活動を開始出来ますが、短大生は1年生から就職活動を始めなければ4大生に勝てない状況になるということです。自分をアピール出来る専門性を身につけていない時期から就職活動をし、専門性をもった4大生に伍して行かなければならないと言うことです。もっと問題なのは、まだ大学の中もよく分からない入学早々の1年生に就職意識を持ってもらわなければ何も出来ないということです。宮崎参与からのご報告にもありましたように、去る2月24日には本学で石川県短期大学就職支援者懇談会が開催されました。そこでは各校とも知恵をしばって、教員と就職支援の職員が連携を密にして学生の就職教育をしている実態を見聞することが出来ました。で、本学では学生をどのように教育し指導するか。先生の意識改革も含めて、これが今回のFD研修のメインだと思っています。

現況を分析すると、企業説明会のピークは卒業前々年の秋で、結果である内定発表とは直ぐには連動していません。この説明会から就職活動し始めて内定は次学期のはじめというのが一般的

なパターンです。そこで、1年生に早い時期から就職意識を持たせることが出来れば、意識を持った学生は説明会に参加し、エントリーして就職活動に入っていけるということになります。これを踏まえて、本日は短大生にどのように就職支援をするのがよいのか、グループに分かれて討論していただき、その上で全体討論をさせていただきました。各グループの議論は；

グループA：就職意識を向上させるには

グループB：就職を有利にするための資格・検定

グループC：キャリアプランニングの授業内容改善

グループD：就職支援講座（学力・マナー）

でした。

従来、就職教育はともすれば就職活動のための技術教育に流される面があったわけですが、今回はこれをより教育的な角度からご討論いただきました。ご議論いただいて見えて来たことは次の3点ではないでしょうか。

- 1) 就職するという意識付けの問題。
- 2) 就職意識以前の問題。
- 3) 学生による自分自身のステップアップ。

1) 就職するという意識付けの問題

この問題は就職活動のための技術教育という面からはいろいろな対応策が考えられます。それは「キャリアプランニングの授業内容改善」や「就職意識を向上させるには」でご議論いただいた中に出ています。つまり意識向上のための啓発プログラムを考えて実行するという事です。まだ成熟には程遠い学生の当面の状況を打開するためには啓発プログラムは大変重要で、提言されたことを吟味し、どのような組み合わせでステップアップさせながら実行するかが今後の課題です。しかし、もっと重要な問題点は、“自分探し”で、これが出来ていればその学生には啓発プログラムは必要ないとも言えると思われれます。自己が何ものなのか。自分は何がしたいのか。これは全ての学生が大学時代に見つけてほしいことで、私もキャッチフレーズに使っていました。しかし、現実には自分を探し出した人はほとんどいないのが現状だろうと思います。それは自分自身を振り返ってみても明らかです。“自分探し”では、実は“自己が何ものなのか”ということをお問しながらいろいろと試して経験するということが重要なのであって、おいそれと見つかるものではないのですが、その努力のためにはある種の力が必要なのだと思います。今問題なのは“自分探し”をしない、あるいは出来ない学生が多いことで、そのため“自分探し”なしで就職意識を向上させるには、上記の啓発プログラムは大変重要ということになると思われれます。しかし“自分探し”のためのある種の力を養うことは就職教育以前の問題で、大きく言えば大学教育そのもので、専門学校との差別化を考える大変重要な立地点と考えられれます。

2) 就職意識以前の問題

“自分探し”をしない、あるいは出来ない学生についての問題が就職意識以前の問題と考えられれます。これらの学生にはどのような問題があるのか。議論いただいた中から見えてきたことは次のようなことと思われれます。

- i) 基礎学力がない。
- ii) コミュニケーションができない。
- iii) 自分で考えることができない。

しかし、これらの問題は決して就職支援のための問題点ではありません。これらは大学教育そのものの問題、あるいはそれ以前の問題です。ですが、大多数の学生にとって本学は学校教育の

最終ステージである訳ですので、これらの問題には関知しないでは済まされないと考えられます。これらの問題についてはグループAの「就職意識を向上させるには」やグループDの「就職支援講座（学力・マナー）」でご議論いただきました中に見えております。大学教育そのものの問題である以上、その対策はカリキュラムにかかわることは両グループの提言を見ていただくとよく分かります。したがって本学の大学教育をどうするのかという問題になり、今回の私の分を超える事柄になります。しかし、いくつかの問題分析をしてまとめてみます。

i) 基礎学力がない

これには2つの問題点が考えられます。a) 1つは高校までの授業がゆとり教育などで弱体化したため、学生の学力が我々の求めているレベルに達していない。これにはその分の補習授業で対応できる可能性があります。お手すきの先生方で手当するには多分荷が重過ぎる(多すぎる?)ので、高校をリタイアされた先生などをお願いして、国語、算数、理科、社会など基礎学力の向上を図れば対応出来ると考えられます。b) 2つ目には知に対する興味の発達が著しく損なわれている学生の問題です。これには家庭での教育環境(教育についての親の主義)などの問題があるように思われます。教育は全て学校の責任であって帰宅後の子供の過ごし方には感知しないというような親もいるように聞きます。この場合は補習授業だけでは対応できないと思われまます。一番簡単な対応法は入学時の学力審査を適正に行うことですが、大学経営の根幹に関わることでコメントは致しません。ただそのような学生が何人かの先生の専門教育の時間を損ない、全体の教育の質を損ない、しいては大学の評価を下げる懸念も考えられます。

ii) コミュニケーションができない。

これについては3つの問題点が考えられます。a) マナーが定着していないためにコミュニケーションができない。b) 2つ目は社会に対する好奇心をもっていない。a) と b) については学校での対応が可能で、特に対 a) についてはグループAおよびグループDでいくつかのご提言をいただいております。この中には電話の掛け方などと言うものも含まれます。電話でアポを取って会社の面接のお願いをする、などというのは携帯電話で話をするのとは全くちがいます。しかし就職活動では重要なコミュニケーションとなります。なかでも面白いのはグループDでご議論いただいた「参加型授業」で、うまいテーマを見つけて行司役がうまく導けば学生に自信を付けながらマナーを学ばせる方法になるのではないかと思います。また対 b) については新聞を読むといった短期的方法も有りますが、少し長期に考えると良質の本を読むことが大変いい自己啓発になると思います。これらは折に触れての先生方のご指導で賄えるのではないかと思います。c) 3つ目には自分の世界から出なくて人とコミュニケーションを取ることができない学生です。これはカウンセリングなどによって心を開かせるなどが必要と思われ、前項 i) の b) 同様家庭教育や家庭との連携が重要と考えられます。

iii) 自分で考えることができない。

これにも前項 ii) の b) c) に関わってくるところで、自己啓発することによって解決するしかないと思われまます。あるいは、前出の「参加型授業」ならば半ば強制的に考えを言わなくてはならなくなるかも知れません。しかし、経験的には強制的に考えを言わなくてはならなくなると言える学生は軽症者で、重症者は自分の中に閉じこもって ii) の c) 状態になってしまうことが考えられます。

3) 学生による自分自身のステップアップ。

これにはグループBでご議論いただいた「就職を有利にするための資格・検定」でのご議論が

おおいに役立ちます。しかし、グループ B でも指摘されているように、資格や検定を受けて自分のステップアップを図るよりもっと重要なことはコミュニケーション力を身につけることだと思われます。ステップアップはその上での問題となると思われます。方法はいろいろあつて、本学でも資格支援センターで扱っているものも各種あります。これを動機付けにして学生を導くのも一つの方法ではあると思ひますが、資格を取れば万能であるというような風潮になるのには注意する必要があると思われます。コミュニケーション力が身につけていない学生は、どのような資格を取つても先ずもつて不利です。いろいろな会社の就職支援セミナーで必ず取り上げられるのが礼の仕方ですが、これはコミュニケーションを取るための入り口のマナーだからである、と申うことが分らないと礼は形式的なものでしかないという認識になつて面接で失敗することになりかねないと思われます。資格が評価されるのはその次のステップであると認識しなくてはなりません。

以上、就職支援についての今回の研修を、独断と偏見を顧みずまとめてみました。願わくば、この研修会が今後の学生のため、また先生方の学生教育への一助になれば幸いです。

(野村孝弘)

閉会の挨拶

FD 委員長 岡島 厚



閉会の挨拶

第7回 FD 研修会には、石田寛人学長、槻木 裕次期学長にご参加をいただき、現在、直面している厳しい就職氷河期をどのようにして乗り切っていくかを、教職員および法人の方々一緒になって真剣に考え、その総括を就職委員会の野村委員長にさせていただいた。今後、この総括結果に沿って一步一步実行に移していただきたい。

次に、本学が今迄に取り組んできた主な FD 活動の取組について本 FD 研修会の冒頭で説明した。ここにその概要をまとめ、今後の取組の参考にしていただければ幸いである。

まず、本学において皆さんの努力によって経常的に実施している FD 活動は、下記の事項である。

1. FD 研修会の実施

平成 18 年度後期から年 2 回、学期ごとに FD 研修会を実施し、その報告書を刊行している。またホーム・ページにも掲載している。

2. 学生による授業評価アンケートの実施

学生による授業評価アンケートは平成 18 年後期に試行実施の後、平成 19 年度から年 2 回、学期ごとに実施し、その分析結果の概要はホーム・ページ、およびその期の FD 研修会報告書に掲載している。

3. 教員相互の授業参観

平成 21 年度から教員相互の授業参観を実施している。各教官はその報告書を FD 委員会に提出し、保管している。

4. 本学の教育理念の教育研究への具体化について

教育理念の一つ「良識と礼節」の取組として、日常生活マナー・学習意欲の向上を目指して学生委員会の平木委員長を中心に平成 20 年度から大乘寺における「坐禅研修」を実施している。またその実施報告書を刊行している。

5. 卒業時の本学教育の達成度・満足度の評価

平成 18 年度から卒業時アンケートを実施している。本学学生が卒業時においてどの程度達成感を持ち、満足感をもっているかをアンケート評価し、その分析結果は FD 研修会報告書に掲載している。

6. 卒業生の本学教育の達成度・満足度の評価システムの構築

採用された私学振興共済事業団の補助金を基にして、本学の卒業後 1 年、3 年、5 年の同窓生に本学教育の達成度・満足度を評価してもらうシステムの構築を企画・実施している。

7. 初年次教育の充実を図る仕組みの策定

初年次教育の充実を図る仕組みについては、ライフデザイン総合学科への改組の際、基礎学力向上のため、数学や国語の基礎の科目そしてコミュニケーション科目の充実を図った。さらに全学的仕組みを考える必要がある。

これからの FD 活動の重点的取組事項は、次の通りである。

8. GPA (Grade Point Average) システムの実施

平成 20 年度から教務委員会は GPA を試行として実施して 2 年間の GPA 資料が蓄積されたので、

ようやく厳格な教育の成績データとしていろいろ活用できる段階に達した。FD活動としてのGPAは、GPA値を算出することが重要ではなく、GPA値を教育における厳格な成績評価として如何に有効に活用するかが課題である。さらに近い将来、実施・導入されるべき学習ポートフォリオ(=教職課程履修カルテ)は、全ての成績管理の電算化することを目論んだKGC(金沢短期大学)ポータルなどの構築と併せて導入すれば、より効果的となる。ITC時代に乗り遅れないように、FD委員会やFD研修会を通じて、その展望を明らかにする必要がある。

9. 各学科における3つの方針の制定

- ① 入学者受入れ方針 (アドミッションポリシー)
- ② 教育課程編成・実施の方針 (カリキュラムポリシー)
- ③ 学位授与の方針 (ディプロマポリシー)

を各学科、各ポリシーの具体的な内容を制定し、公開することは急を要する。

10. 学生の就業力の育成を目指す教育の構築

平成23年度から施行の大学設置基準改正に盛り込まれる「就業力」育成のためのカリキュラムの充実が教務委員会を中心として対応すべき事柄である。

最後に、近年、(財)大学基準協会を中心として内部質保証「PDCA(plan-do-check-action)サイクルに基づく内部質保証システムの構築」が望まれている。幸い、本学の教育改善・改革活動の特色は、このような教育の質保証をするためのPDCAサイクルの実施を目指してきた。すなわち主として教授会、教務委員会、FD委員会、そして自己点検・評価委員会が、密接に連携して経常的に内部質保証のためのPDCAサイクルに則って教育内容及び方法の改善・改革に繋げるような仕組みになっている。

今後とも「創造」の教育理念のもと「短大生の学士力」を育成し、それらの質を保証する教育をさらに発展させるために、内部質保証システムの確かな実質化に一層努力する必要がある。

(岡島 厚)

資料 1

平成 21 年度後期 授業改善のための学生アンケート集計結果

平成21年度後期 授業改善のための学生アンケート集計結果

1. 学生アンケート実施

実施日：平成22年1月14日(木)～2月3日(水)

科目数：90科目

回答数：2497枚

2. アンケート集計処理

短期大学全体 → 90科目 (2497枚)

ライフデザイン総合学科 → 57科目 (1183枚) <参考>

食物栄養学科 → 40科目 (1519枚) 両学科共通は7科目 (205枚)

1年生科目 → 54科目 (1752枚)

2年生科目 → 36科目 (745枚)

(ライフデザイン総合学科には生活デザイン学科も含む)

3. 短期大学全体のアンケート集計結果

(1) 評価が良い回答

問1. 先生の声は聞こえましたか。

問4. 教科書・参考書・配付資料などは活用されましたか。

問8. 授業に対する先生の熱意が感じられましたか。

(2) 評価が悪い回答

問12. あなたは授業の「講義要項(シラバス)」を活用しましたか。

問13. あなたは、この授業の勉強(予習・復習・課題など)をしましたか。

(3) 授業について当てはまる項目で回答数が多い項目

(%は受講学生数に対する回答した学生の割合)

4. 量が多かった。 (18.1%)

5. 内容が難しかった。 (19.1%)

7. 自分の基礎知識がなかった。 (20.5%)

8. 自分が勉強不足だった。 (15.0%)

4. 短期大学全体と両学科の比較、1・2年生科目の比較

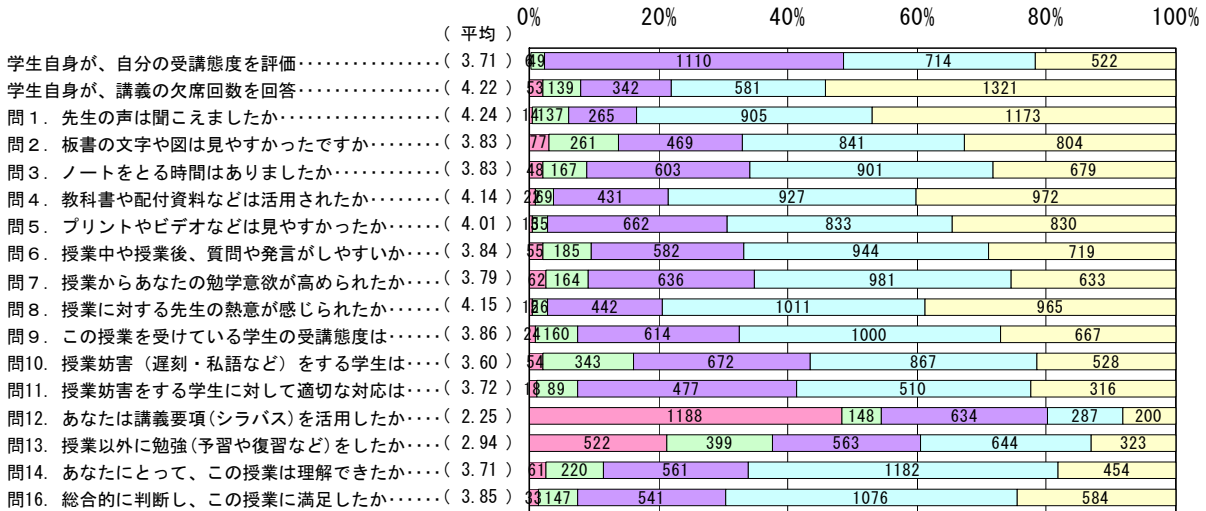
(1) 短期大学全体と両学科の傾向はほぼ同じである。

(2) 1年生科目と2年生科目の比較では、前期アンケートは1年生の方が「量が多かった」「内容が難しかった」「自分の基礎知識がなかった」「自分が勉強不足だった」と答えた学生が多かったが、後期アンケートでは学年による違いが少なくなっている。

(松井良雄)

短期大学の全科目

アンケート集計結果（数値は票数）

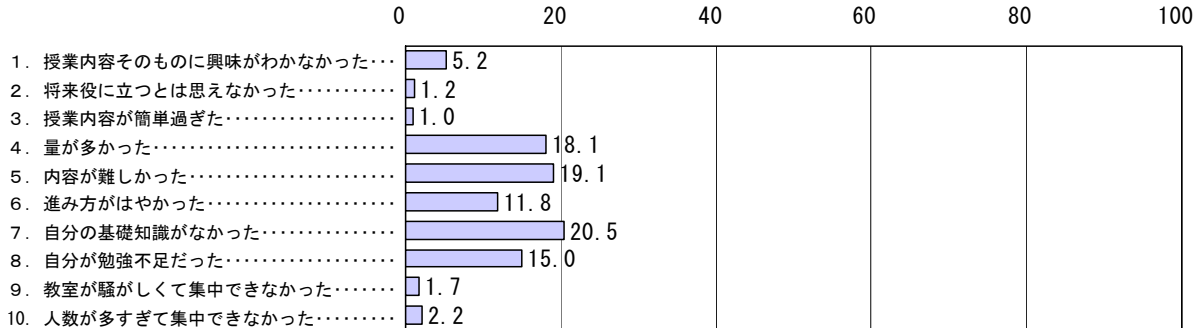


①～⑤ポイントは後掲のアンケート用紙を参照

① ② ③ ④ ⑤

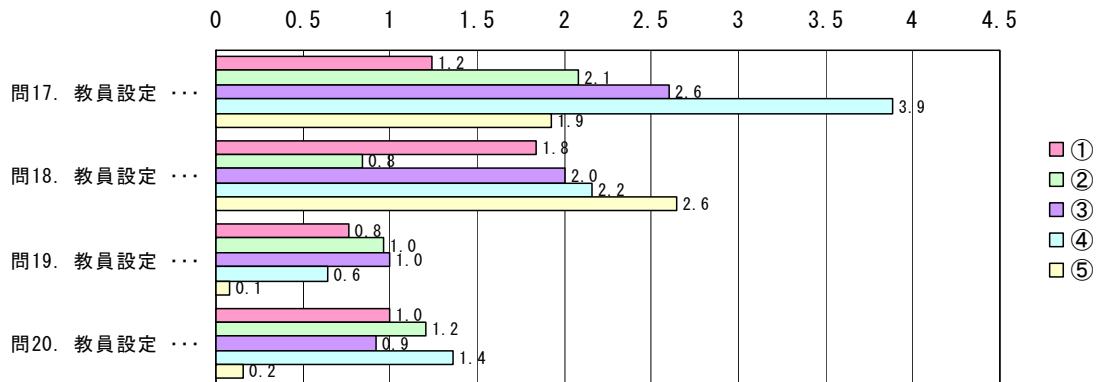
問15. この授業について、当てはまる項目（複数回答可）

受講学生数に対する割合（%）



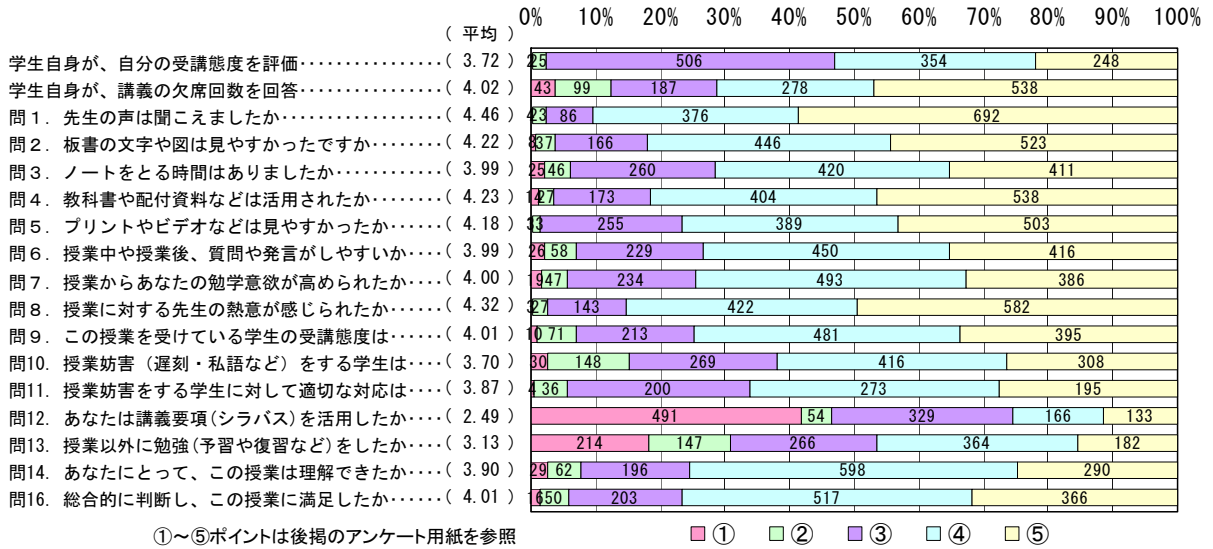
担当教員 自由設定設問

受講学生数に対する割合（%）

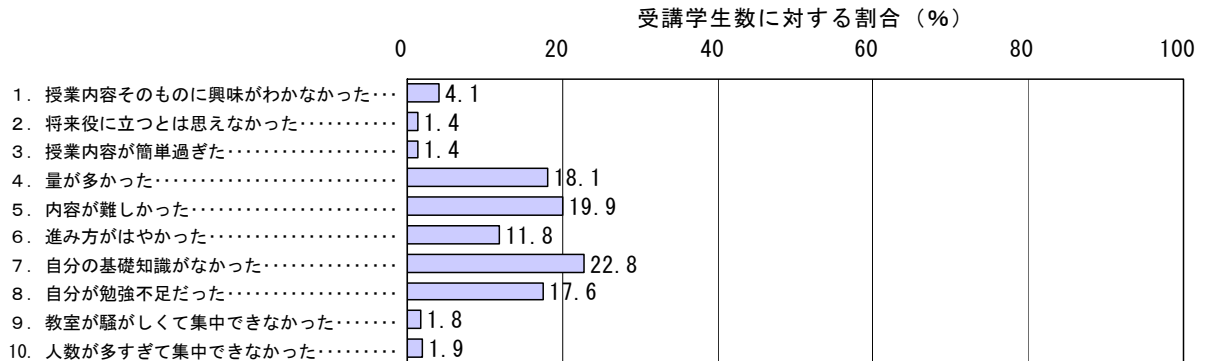


生活デザイン学科・ライフデザイン総合学科

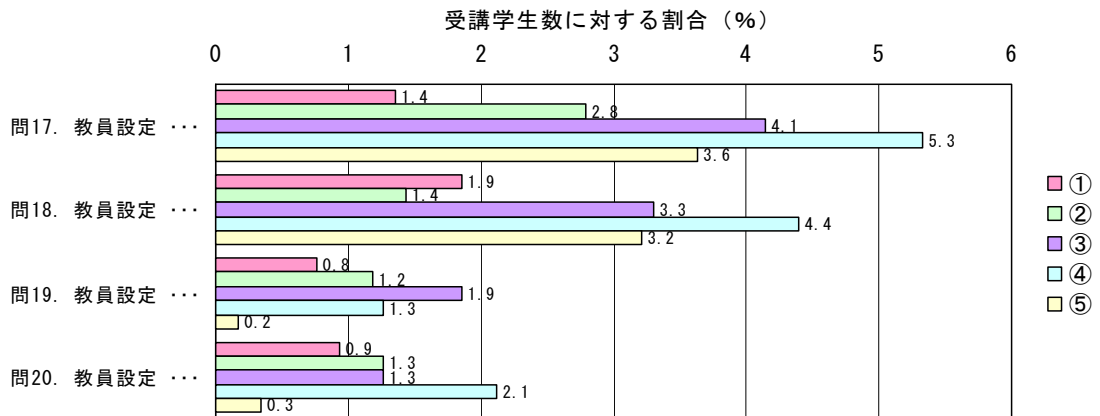
アンケート集計結果（数値は票数）



問15. この授業について、当てはまる項目（複数回答可）

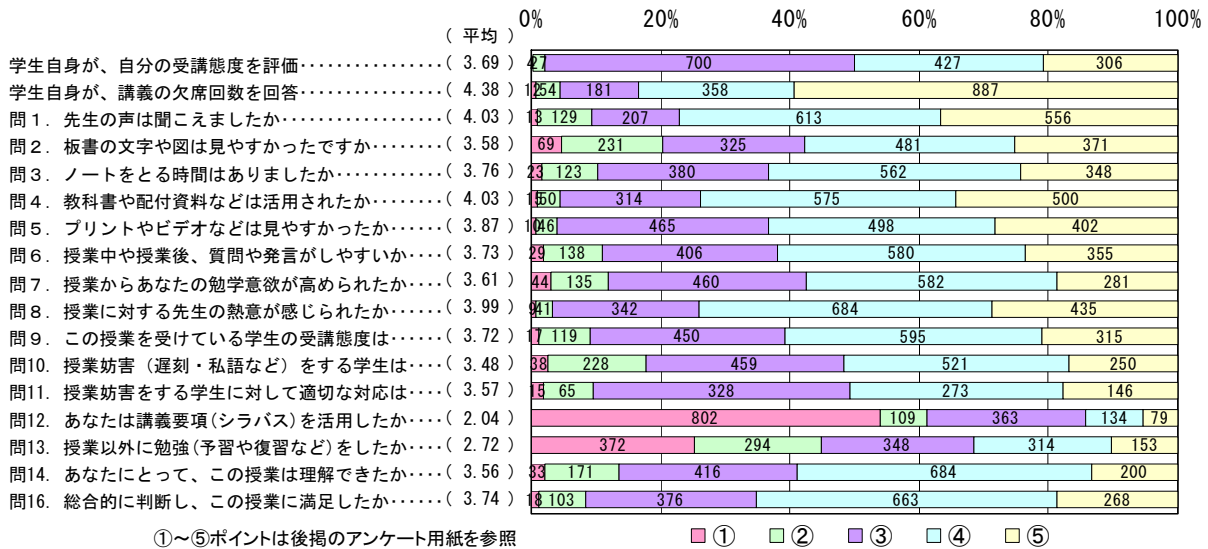


担当教員 自由設定設問



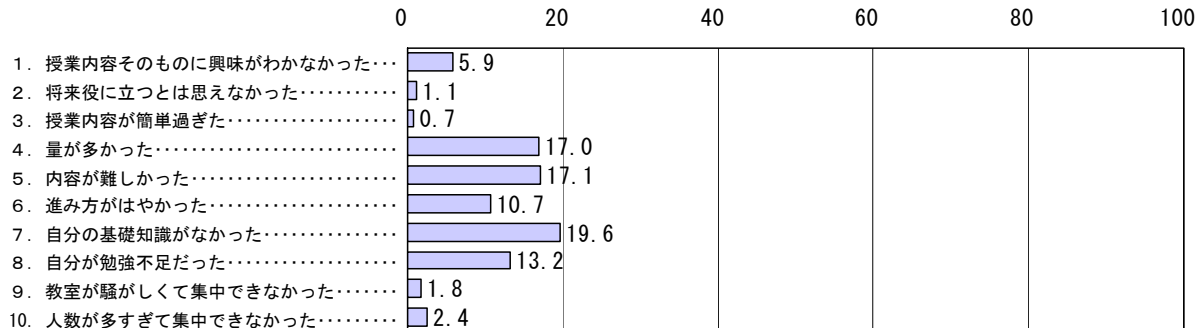
食物栄養学科

アンケート集計結果（数値は票数）



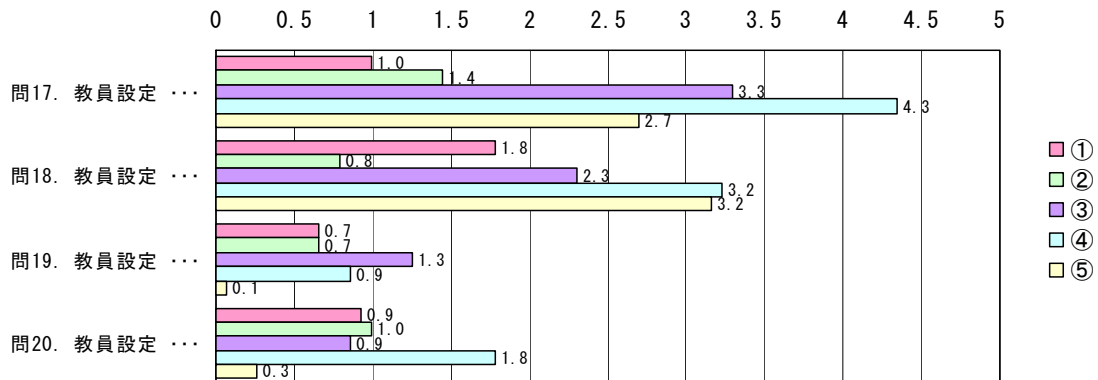
問15. この授業について、当てはまる項目（複数回答可）

受講学生数に対する割合（%）



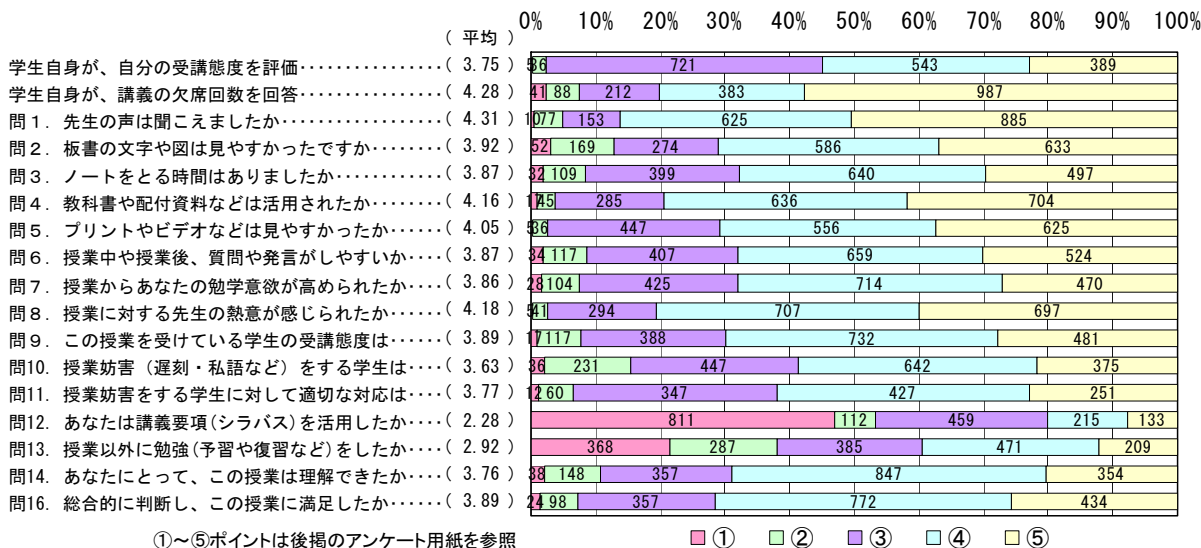
担当教員 自由設定設問

受講学生数に対する割合（%）

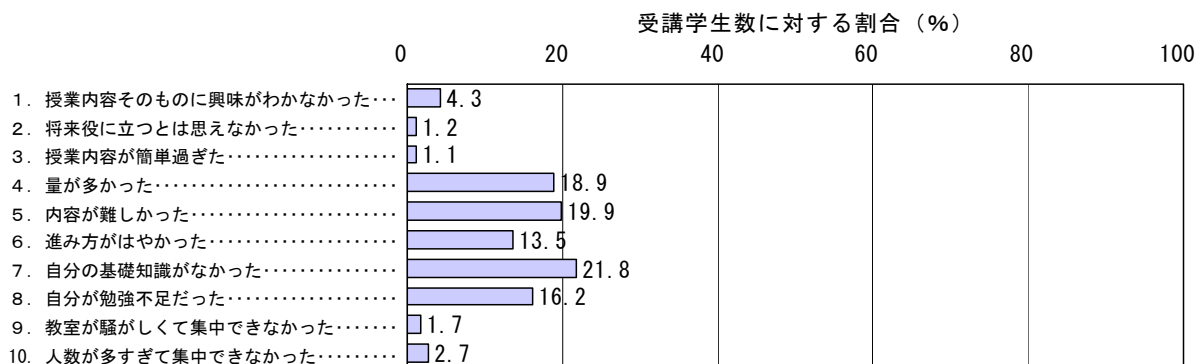


1年生科目

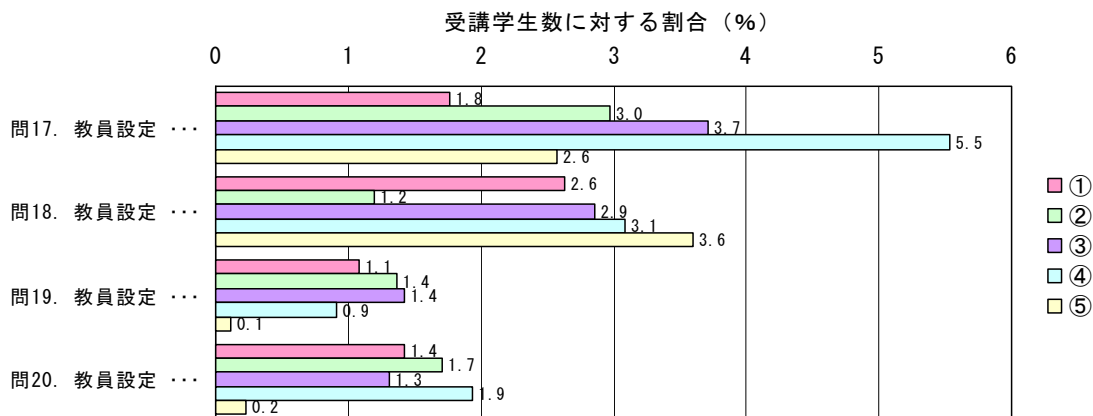
アンケート集計結果（数値は票数）



問15. この授業について、当てはまる項目（複数回答可）

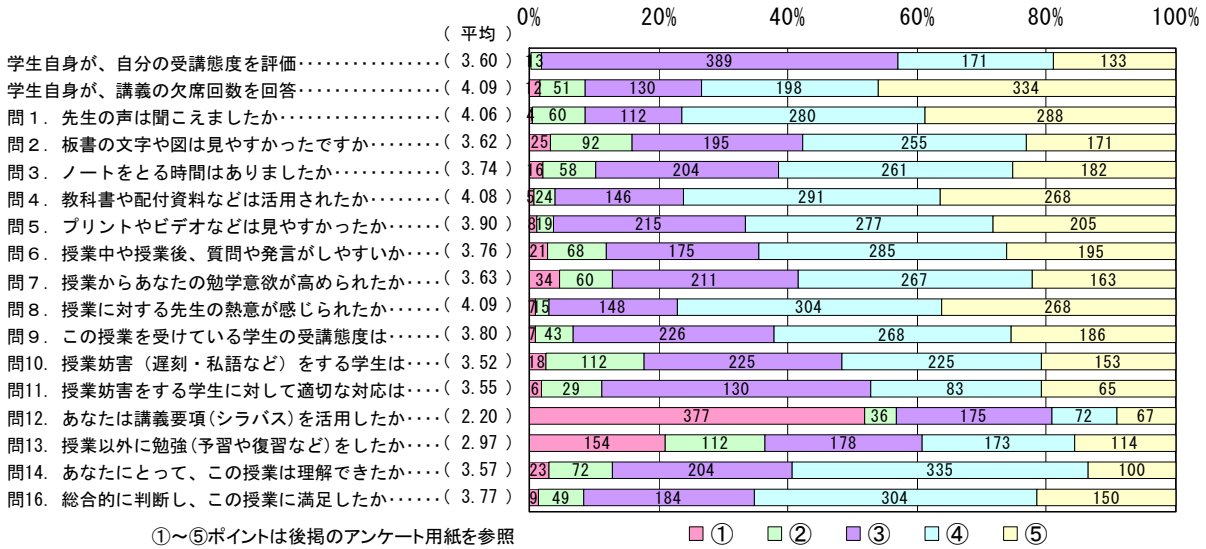


担当教員 自由設定設問



2年生科目

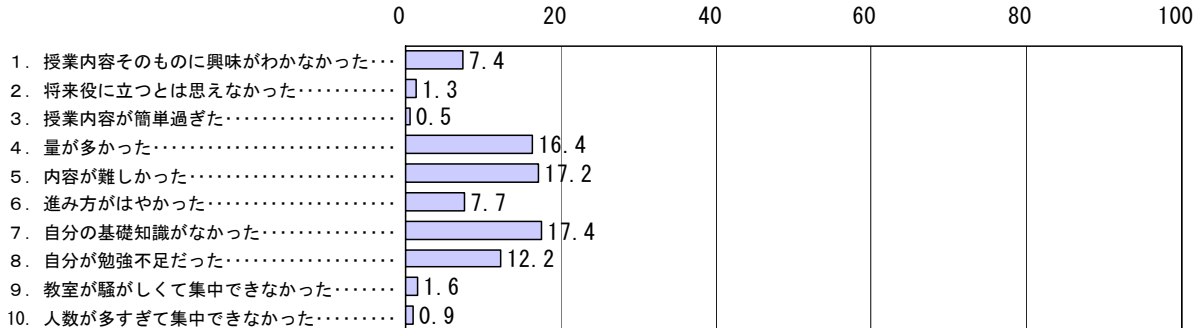
アンケート集計結果 (数値は票数)



①～⑤ポイントは後掲のアンケート用紙を参照

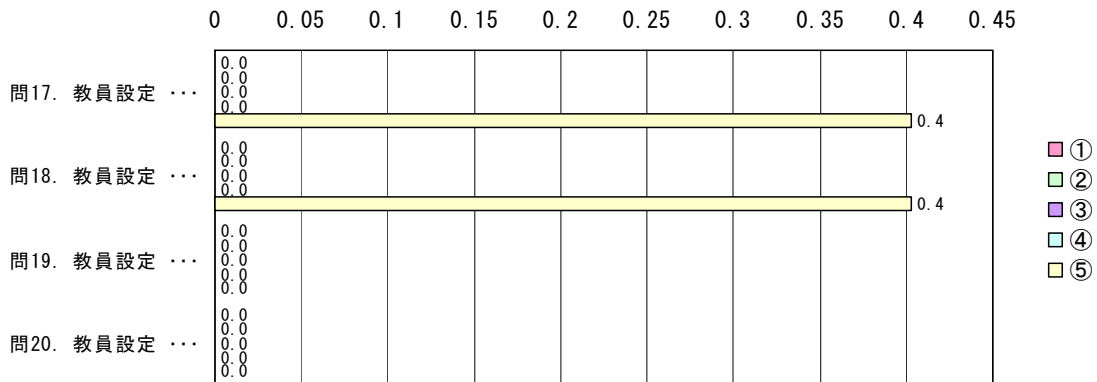
問15. この授業について、当てはまる項目 (複数回答可)

受講学生数に対する割合 (%)



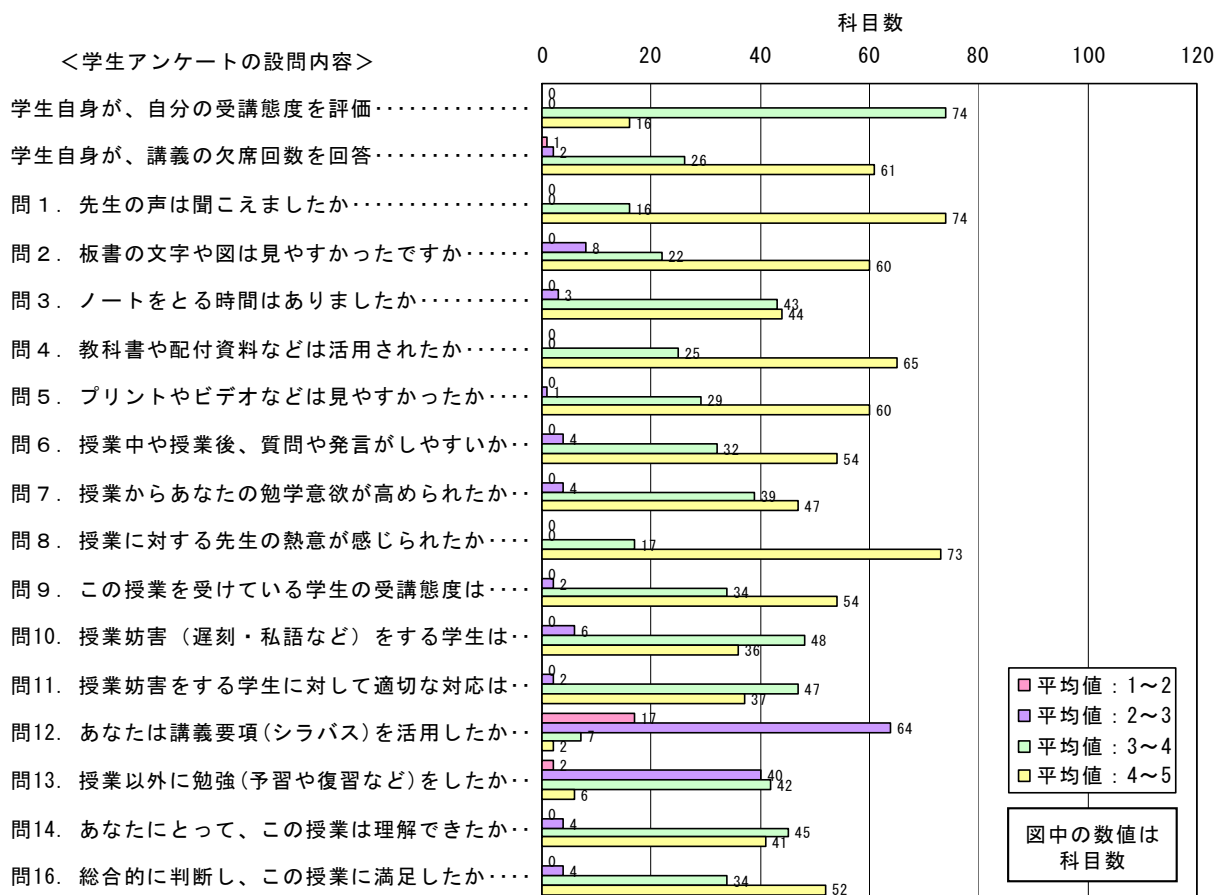
担当教員 自由設定設問

受講学生数に対する割合 (%)

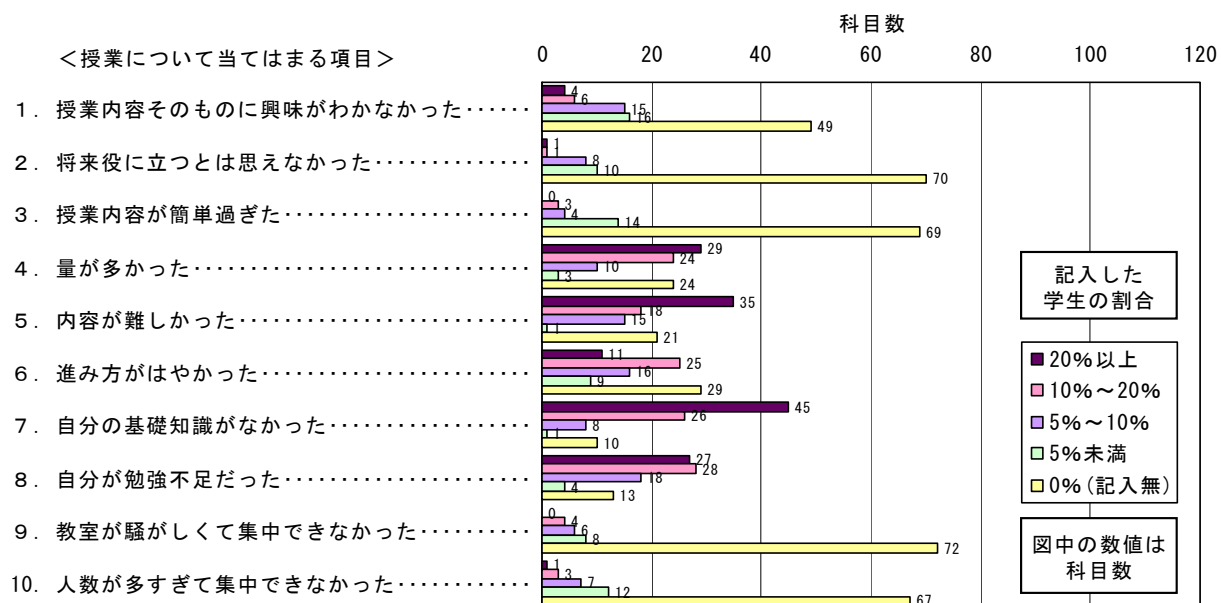


金沢学院短期大学 平成21年度後期 授業改善のための学生アンケート
 科目数の分布結果：短期大学の全科目数=90科目

「設問（問1～問16）」ごとの「平均値（1～5）」に対する科目数の分布

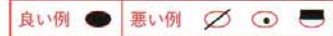


「授業について当てはまる項目」ごとの「記入した学生の割合」に対する科目数の分布
 参考：「記入した学生の割合」は、受講学生数に対する記入した学生の割合(%)



授業改善のための学生アンケート

マークはHB程度の鉛筆で○内を塗りつぶしてください。



このアンケートは学生の皆さんが受講した授業科目を今後より一層充実させるため、実施するものです。成績評価とは全く関係ありません。率直かつ真剣にお答えください。

授業科目	教員氏名
------	------

科目番号 (たてに)									
①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩

1. あなたについて、お尋ねします。当てはまる箇所をマークしてください。

学 科	生活デザイン学科	ライフデザイン総合学科	食物栄養学科				
	○	○	○				
学 年	1年	受講態度	非常に悪い	やや悪い	普通	まあまあよい	非常によい
	○		①	②	③	④	⑤
	2年	欠席回数	4回以上	3回	2回	1回	0回
	○		①	②	③	④	⑤
	その他						
	○						

11. 授業について、お尋ねします。以下の各項目についてあなたはどのように思ったり、感じたりしましたか。各項目について当てはまる番号を1つ選び、マークしてください。

1	先生の声は聞こえましたか。	ほとんど聞こえなかった ①	あまり聞こえなかった ②	どちらともいえない ③	まあまあ聞こえた ④	よく聞こえた ⑤
2	板書の文字・図は見やすかったですか。	見にくい ①	少し見にくい ②	どちらともいえない ③	まあまあ見やすい ④	見やすい ⑤
3	ノートをとる時間はありましたか。	ほとんどない ①	あまりない ②	どちらともいえない ③	まあまああった ④	十分にあった ⑤
4	教科書・参考書・配付資料などは活用されましたか。	ほとんど活用されていない ①	あまり活用されていない ②	どちらともいえない ③	まあまあ活用されている ④	十分に活用されている ⑤
5	プリント・ビデオ教材・プロジェクター画面などは見やすかったですか。	見にくい ①	少し見にくい ②	どちらともいえない ③	まあまあ見やすい ④	見やすい ⑤
6	授業中や授業後、質問や発言がしやすかったですか。	思わない ①	あまり思わない ②	どちらともいえない ③	まあまあそう思う ④	そう思う ⑤
7	この授業から、あなたの勉学意欲を高められましたか。	高められなかった ①	あまり高められなかった ②	どちらともいえない ③	まあまあ高められた ④	高められた ⑤
8	授業に対する先生の熱意が感じられましたか。	感じられなかった ①	あまり感じられなかった ②	どちらともいえない ③	まあまあ感じられた ④	感じられた ⑤
9	この授業を受けている学生の受講態度はあなたから見てどうでしたか。	良くなかった ①	あまり良くなかった ②	どちらともいえない ③	まあまあ良かった ④	良かった ⑤
10	授業妨害(遅刻・私語・携帯操作・居眠りなど、授業以外のこと)をする学生はいましたか。	たくさんいた ①	少しいた ②	どちらともいえない ③	ほとんどいなかった ④	いなかった ⑤
11	10で①または②の場合、授業妨害をする学生に対して適切な対応はなされていましたか。	適切な対応はされなかった ①	あまり適切に対応されなかった ②	どちらともいえない ③	まあまあ適切に対応されていた ④	適切に対応されていた ⑤
12	あなたは授業の「講義要項(シラバス)」を活用しましたか。	ほとんど活用しなかった ①	少し活用した ②	どちらともいえない ③	まあまあ活用した ④	大変よく活用した ⑤
13	あなたは、授業中以外の時間(休憩時間や帰宅後)に、この授業の勉強(予習・復習・課題など)をしましたか。	ほとんど勉強しなかった ①	あまり勉強しなかった ②	どちらともいえない ③	まあまあ勉強した ④	勉強した ⑤
14	あなたにとって、この授業は理解できましたか。	ほとんど理解できなかった ①	少ししか理解できなかった ②	どちらともいえない ③	まあまあ理解できた ④	大変よく理解できた ⑤
15	この授業について、次の項目のうち当てはまる番号をマークして下さい。(複数回答可)	① 授業内容そのものに興味がなかった。 ② 将来役に立つとは思えなかったので、興味がなかった。 ③ 授業内容が簡単過ぎた。 ④ 量が多かった。 ⑤ 内容が難しかった。 ⑥ 進みがはやかった。 ⑦ 自分の基礎知識がなかった。 ⑧ 自分が勉強不足だった。 ⑨ 教室が騒がしくて集中できなかった。 ⑩ 人数が多すぎて集中できなかった。				
16	総合的に判断してあなたはこの授業に満足していますか。	かなり不満足である ①	少し不満足である ②	どちらともいえない ③	まあまあ満足している ④	大変満足している ⑤
17		①	②	③	④	⑤
18		①	②	③	④	⑤
19		①	②	③	④	⑤
20		①	②	③	④	⑤

★この授業について意見があれば、裏面1に、自由に記入してください。

金沢学院短期大学

資料 2

平成 21 年度 金沢学院短期大学の教育改善に向けた 卒業時アンケート集計結果

平成21年度 金沢学院短期大学の教育改善に向けた 卒業時アンケート 集計結果

I. 目的

本研究は、卒業間近の本学2年生を対象とし、在学時の学習実態および学生生活の現状を明らかにすることを通して、今後の教育改善の可能性を探究するものである。

II. 方法

質問紙調査法を用いる。なお、調査者は各クラスの担任教員とし、各クラスでホームルーム時間を設けて、担任教員立会いのもとに実施する。

III. 対象

平成21年度本学卒業見込み学生128名
生活デザイン学科54名、食物栄養学科74名

IV. 時期

平成22年2月中のクラス担任指定日

V. 結果

次ページより、質問1から質問12までの調査結果を「短期大学全体」、「生活デザイン学科」、「食物栄養学科」の順に掲載する。また、質問13から質問16までの自由記述に関しては、短期大学全体の結果としてキーワード抽出した後、語句を統一・整理し、原則としてデータ数の多い順に掲載する。

VI. 考察

1. 第1回(平成18年度)、第2回(平成20年度)との比較

- ・ 継続調査項目では、「パソコン環境」「就職支援」の評価が向上した。
- ・ 進学理由では、継続調査項目の回答は概ね減少し、新設項目「学習内容の興味」「資格取得」などに多くの意見が集まった。
- ・ 在学中特にならばったことを「アルバイト」とする学生が最も多いのは初めてであった。

2. 両学科の比較

- ・ 4項目で顕著な違いがみられた。すなわち、「教室」「本学への思い」「総合評価」は生活デザイン学科の評価が高く、「事務局」は食物栄養学科の評価が高い。

3. 本調査の全体的な傾向

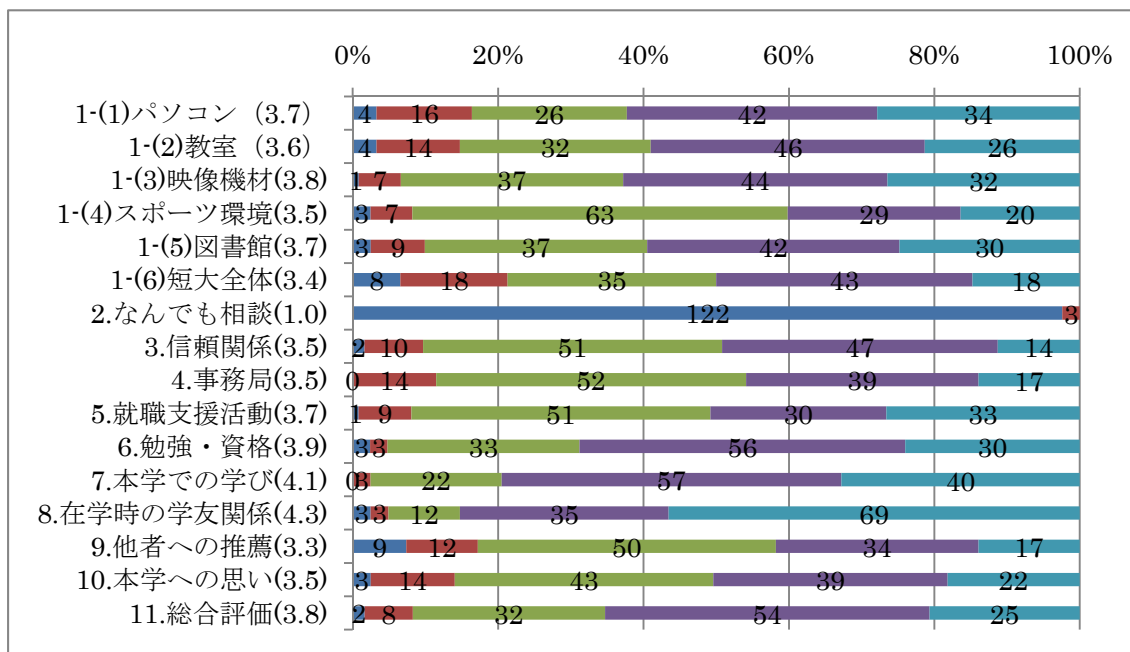
- ・ 新設項目の「在学時の学友関係」が、短大全体、両学科のいずれでも全質問項目中、最も高評価であった。
- ・ 課外活動実績を記入する学生は、本学への満足度が高かった。

(小林 淳一)

金沢学院短期大学 平成21年度卒業時調査 短大全体

質問項目1から11のまとめ

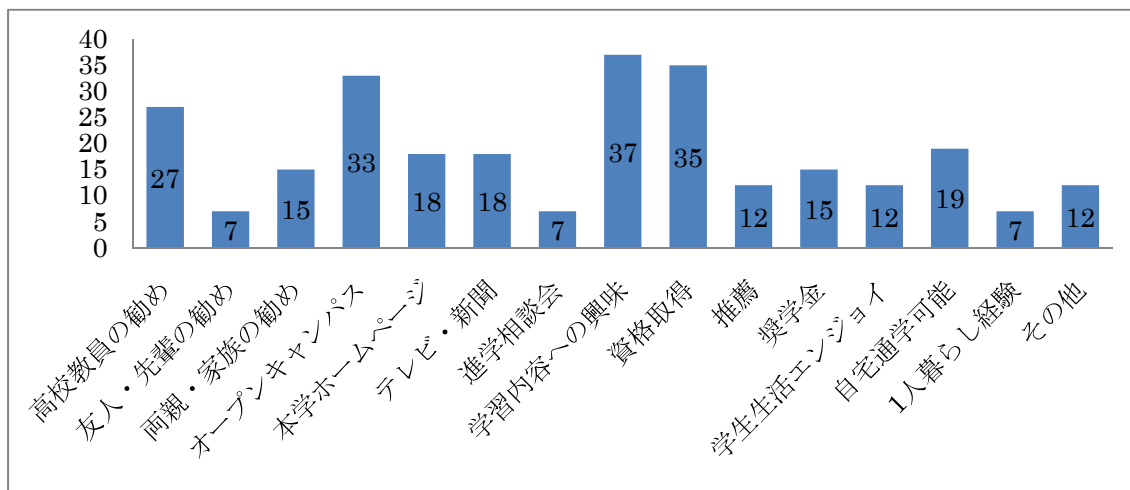
質問番号、質問内容、平均値、回答1-5のデータ数の順に表記



質問1から11の自由記述で3件以上挙げられた項目一覧

パソコン(台数、Macなど)・教室(隣との距離が狭い、パソコン設置教室など)・椅子・食堂(メニュー、券売機)・就職支援センター・資格・クラス内の友人関係

質問12 進学理由(複数回答可)



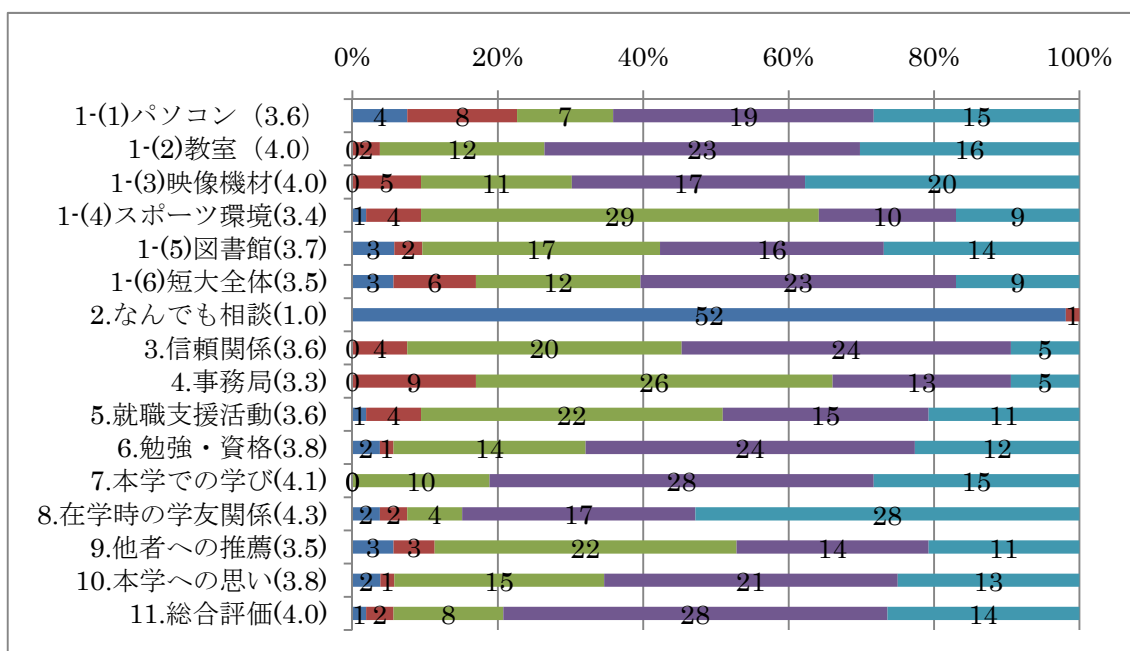
進学理由(その他)の具体的説明

パンフレット・東高校・地元で志望学科がない・恋人と相談

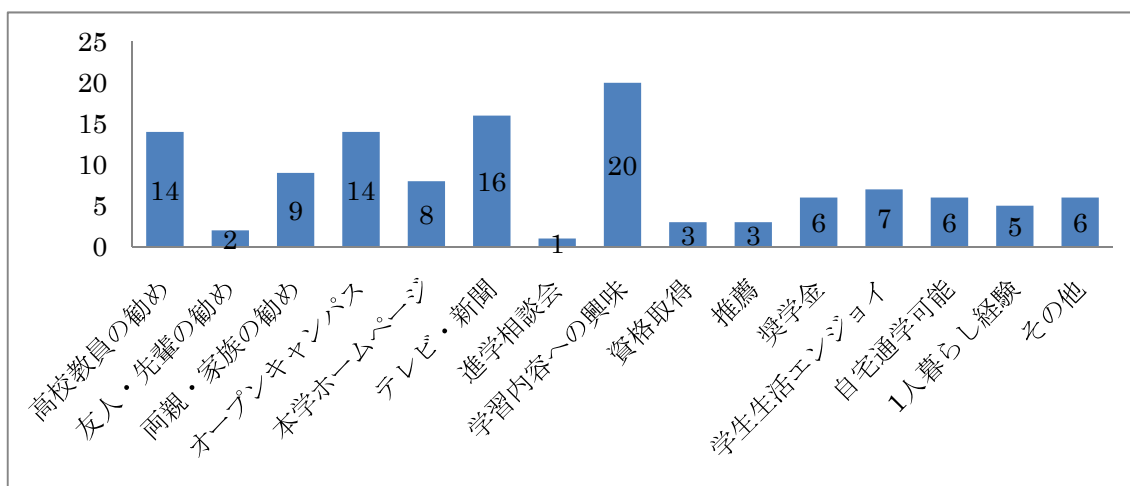
金沢学院短期大学 平成21年度卒業時調査 生活デザイン学科

質問項目1から11のまとめ

質問番号、質問内容、平均値、回答1-5のデータ数の順に表記



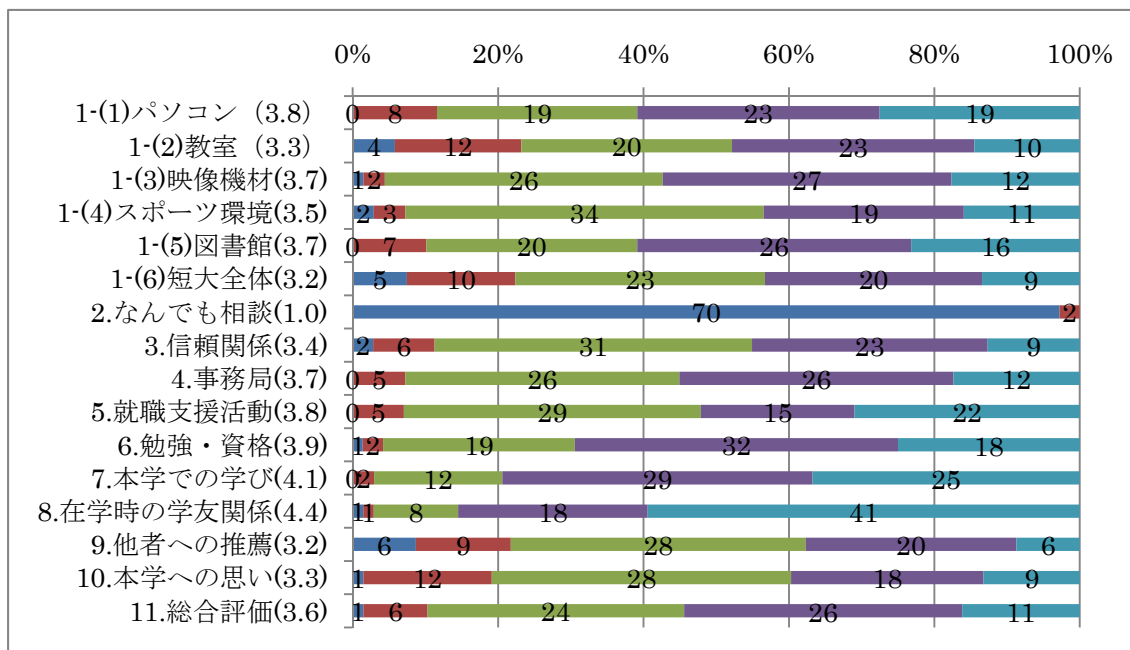
質問12 進学理由(複数回答可)



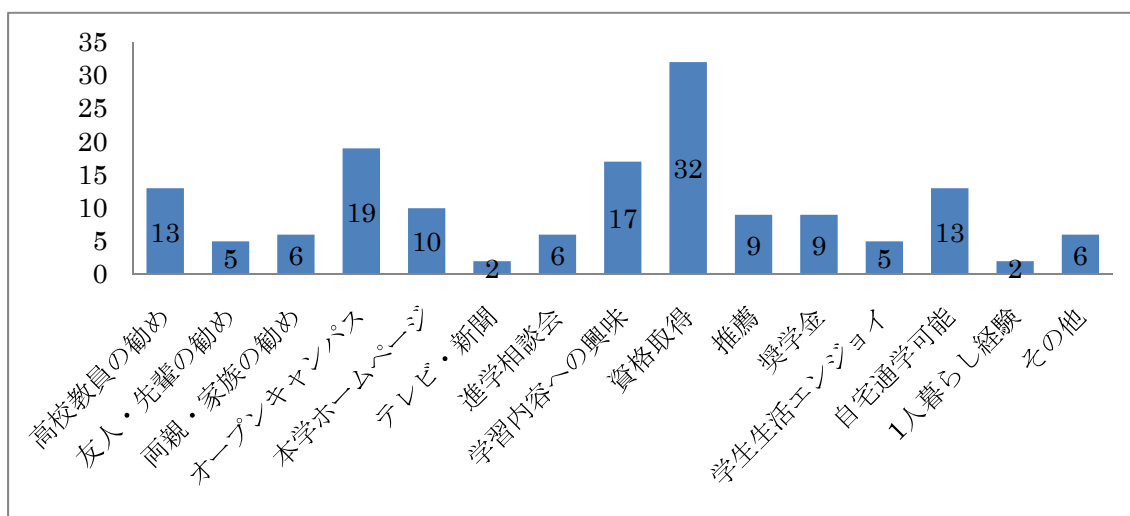
金沢学院短期大学 平成21年度卒業時調査 食物栄養学科

質問項目1から11のまとめ

質問番号、質問内容、平均値、回答1-5のデータ数の順に表記



質問12 進学理由(複数回答可)



質問13から16の自由記述一覧(複数回答可)

項目後の括弧内の数値は延べ人数を示す

質問13 課外活動実績

- 部活・サークル活動(23)
- ボランティア活動(12)
- 北陸三県私立短期大学体育大会(11)
- 学友会(10)
- ジャパンテント(7)
- 学園祭(実行委員含む)(6)
- 絵本読み聞かせ(5)
- インターンシップ(1)
- 海外研修(1)

質問14 在学中の取得資格一覧

(栄養士や秘書士など、取得見込みの資格を未記入のデータや、漢字検定や色彩検定など、級を未記入のデータが多く、実際の取得人数とデータ数が一致していない。そのため今回は、個別資格の取得者数は明記せず資格名だけ記すこととする。精緻な調査方法の検討が今後の課題である。)

- 漢字検定(準1級～3級)
- 栄養士
- 社会福祉主事任用資格
- 栄養教諭二種
- 色彩検定(2級～3級)
- ファッション販売検定
- ファッションビジネス検定
- 色彩コーディネーター(3級)
- ビジネス文書検定(2級)
- 表計算・ワープロ検定(2級)
- コンピューターサービス技能検定
- サプリメントコーディネーター(初級)
- 秘書検定(準1級～2級)
- お筆の免状(普通部)

- 普通自動車第一種運転免許(7)

質問15 在学中特にながらったこと

- アルバイト(49)
- 勉強・レポート(25)
- 1人暮らし(15)
- 友人との交流(14)
- 卒業展覧会(10)
- 学園祭(7)
- 資格取得(3)
- 遠距離通学(3)

質問16 思い出や意見、要望

(文章形式が多く項目が多岐に亘るため、ここでは挙げられたキーワードを抜粋し明記する。)

- 食堂(価格・栄養バランス)
- シャトルバス(時間・本数・場所)
- 駐車場(申請方法・価格・雪)
- 学生生活(学友・クラス)
- パソコン(台数・Mac)
- キャンパス(2号館までの距離・冷暖房)
- 通学時間・立地条件
- 購買(スタッフ・営業時間)
- 教授・先生
- 公共交通機関(バス・電車)
- フレッシュマンキャンプ
- 企業見学
- 図書館の携帯電話マナー
- 学費高い・光熱費高い

金沢学院短期大学の教育改善に向けた卒業時アンケート

(実施日：平成22年 2月 日)

このアンケートは、本年度卒業予定のみなさんの意見を参考にして、金沢学院短期大学の教育を今後より一層充実させるためのものです。本学の教育改善のため、2年間の学生生活の率直な感想を書いて下さい。

I. 名前、学科、クラス、名列番号を教えてください。

名前		名列番号	
学科・クラス	生活デザイン学科	ふ文	ビ文 CV AF SI
	食物栄養学科	A	B

II. 学生生活についてお尋ねします。以下の各項目に対して、あなたはどのように思いましたか。各項目について当てはまる番号を塗りつぶしてください。さらに、その理由や具体例について説明する場合は、下のスペースに自由に記述してください。自由記述はなるべく詳しく、率直な意見を書いていただけることを期待します。

1. 学内の施設や機器備品についてお尋ねします。

	不満が残った	どちらかといえば 不満が残った	どちらとも いえない	どちらかといえば 満足した	満足した
(1) パソコン設備	①	②	③	④	⑤
(2) 机や椅子、黒板等教室の環境	①	②	③	④	⑤
(3) スクリーン、プロジェクタ等 映像設備	①	②	③	④	⑤
(4) スポーツ設備	①	②	③	④	⑤
(5) パソコン設備	①	②	③	④	⑤
(6) 短大全体の施設設備	①	②	③	④	⑤

2. 「学生なんでも相談」はいかがでしたか。

不満が残った	どちらかといえば 不満が残った	どちらとも いえない	どちらかといえば 満足した	満足した
①	②	③	④	⑤

3. 教職員との間に信頼関係はあったと思いますか。

そう思わない	どちらかといえば そう思わない	どちらとも いえない	どちらかといえば そう思う	そう思う
①	②	③	④	⑤

4. 短期大学事務局（教務部、学生部など）の対応はいかがでしたか。

	どちらかといえば	どちらとも	どちらかといえば	
不満が残った	不満が残った	いけない	満足した	満足した
①	②	③	④	⑤

5. あなたの就職活動について、短期大学の対応はいかがでしたか。

	どちらかといえば	どちらとも	どちらかといえば	
不満が残った	不満が残った	いけない	満足した	満足した
①	②	③	④	⑤

6. 本学での勉強内容や資格・検定取得は、あなたの進路に役立つと思いますか。

	どちらかといえば	どちらとも	どちらかといえば	
そう思わない	そう思わない	いけない	そう思う	そう思う
①	②	③	④	⑤

7. 本学で学んだことがあなたの将来に活けるとおもいますか。

	どちらかといえば	どちらとも	どちらかといえば	
そう思わない	そう思わない	いけない	そう思う	そう思う
①	②	③	④	⑤

8. 在学中に多くの良い友人に恵まれましたか。

	どちらかといえば	どちらとも	どちらかといえば	
そう思わない	そう思わない	いけない	そう思う	そう思う
①	②	③	④	⑤

9. 本学を後輩に勧めたいと思いますか。

	どちらかといえば	どちらとも	どちらかといえば	
そう思わない	そう思わない	いけない	そう思う	そう思う
① ②	③	④	⑤	

10. 入学前と現在を比較して、本学に対する思いは次のうちのどれですか。

	どちらかといえば	どちらとも	どちらかといえば	
不満が残った	不満が残った	いけない	満足した	満足した
①	②	③	④	⑤

1 1. 総合的に判断して、あなたは本学で学んでいかがでしたか。

	どちらかといえば	どちらとも	どちらかといえば	
不満が残った	不満が残った	いけない	満足した	満足した
①	②	③	④	⑤

1 2. 金沢学院短期大学に入学したきっかけを次の中から選んでください。いくつ回答してもかまいません。項目以外のきっかけがある場合は、『⑨その他』を選び、カッコの中に記述してください。

- | | |
|------------------|-------------------|
| ① 高校の先生に勧められて | ⑨ 資格取得のため |
| ② 友人や先輩に勧められて | ⑩ 推薦を受けたため |
| ③ 両親や家族に勧められて | ⑪ 奨学金が支給されるため |
| ④ オープンキャンパスに参加して | ⑫ 学生生活をエンジョイしたため |
| ⑤ 短期大学ホームページをみて | ⑬ 自宅通学が可能だったため |
| ⑥ テレビや新聞の案内をみて | ⑭ 一人暮らしをしてみたかったため |
| ⑦ 進学相談会に参加して | ⑮ その他() |
| ⑧ 学習内容に興味があったため | |

Ⅲ. 以下の各項目に対して、あなたの意見・感想を教えてください。

1 3. 部活動・サークル活動・学友会活動・ボランティア活動などをしましたか。在学中に参加した課外活動を、全て書いてください。

1 4. 在学中にどのような資格を取得しましたか。取得した資格を、全て書いてください。

15. 在学中に、あなたが特にならばったことを書いてください。(複数回答可)

※学習内容、教師との会話、ボランティア、課外活動、読書、友人との交流、バイト、家事など
どのような内容でもかまいません。

16. 質問項目の他に、通学環境(シャトルバスや駐車場など)、学生食堂、キャンパス全体など、
金沢学院短期大学に対するあなたの意見や要望、さらには学生生活全般を通しての感想や思
い出がありましたら、自由に書いてください。

ご協力ありがとうございました。

資料3

第7回FD研修会 参加者アンケート集計結果

第7回FD研修会参加者アンケート集計結果

I. 開催日・出席者数

開催日	平成22年3月9日(火)		
出席者数	39名	内訳	短期大学教員 24名 金沢学院職員 4名 その他教員 11名

II. アンケート内容と集計結果

1. 本学のGP(Good Practice)取組について、今後の申請も含めてご意見をご記入下さい。

1	CPC推進室の存在を短大の全学生に周知するとよい。特に4月からの新入生に対しては、入学→すぐに就職意識→CPC推進室の活用を、フレッシュマンセミナーで案内すればよい。今後の申請に関しては、ICT能力の育成、ネットワークの活用、就職と教育も盛り込んで申請すればよい。
2	食物栄養学科も今後何らかの形で参画できればよい。
3	本学のGPの取組みは、先生方がそれぞれ忙しい中、実施していると考えられる。各先生がもう少し自由に動けるような時間的な余裕の必要性を感じる。
4	卒業生との密な関係をつくって講座が実施できることはよい。今後も卒業生との関係を維持できる取組みが必要。
5	目標を大きくせず、着実に進めていくのが望ましい。絵本作成のGPの進め方に共感できる。
6	やるべし。
7	エクステンションセンターの役割に関するテーマについて。
8	本学の教育理念「創造」の遂行のための全学的取組み。
9	moodle
10	対外的な広報に活かされてはどうか。
11	有意義な研修会であった。
12	CPC力(コミュニケーション)も必要だと感じるが、基礎学力定着を目指すリメディアル教育プログラムも必要ではないか。
13	無回答 13名

2. 本学の就職支援体制について、感想や質問等をご記入下さい。

1	基本的な就職支援体制は、整っていると思われる。これに加えて、就職意識の喚起、基本学力のサポート(リメディアル教育)が取り組めるとよい。ただし、教職員の負担があまり多くならない様にうまくプログラムが構築できたら好ましい。
2	今後も努力を継続していきたい。
3	四大と異なっているのでは？と先入観を持って参加したが、基本的なところでかなり共通しているとわかり、参考になった。ただやはり、四大・短大の区別、相違を無視して共通的なところばかりに目をつけても片手落ちなので、基本的な違いにも注目していきたい。
4	就職状況が悪い中、本学ではかなり支援体制を整えている。しかしながら、学生の意識がやや低く、十分に活用されていないような感がある。個々の知識や技術の習得だけでなく、目的意識をもてるような指導も必要。
5	就職活動の意欲向上のための個々の面談が必要。
6	学生が親しみやすく、行きやすいセンターにもう少し改善する。例えば、キャリアプランニング中のグループ授業を行う時に支援センターの職員も加わってはどうか。
7	就職委員以外でも、就職情報があればよい。学生とフレンドリーに付き合える立場で、就職に対しての意識も向上するように働きかけることができる。
8	学生一人一人の性格まで把握して支援するのは大変だと思われませんが、教職員同士が協力して、学生がよい方向に進むよう一緒に頑張りたい。
9	就職カウンセラーの設置を希望する。教員が忙しすぎる。個別の極め細やかな指導・支援体制のために増員を希望する。基礎学力向上のためにリタイヤした高校教員による補習授業を行ってはどうか。
10	人員不足の感があるので、就職カウンセラーなどの新たな人員の導入を希望。
11	必要とされる支援については、一定の外部強制(到達目標)を課し自ら徹底的に実践すること。
12	就職支援センターをより気軽に利用するための全学的取組み。
13	自分の出身大学と比較すると非常によくやっていると感じる。
14	「キャリアプランニング」で今まで以上に就職へのモチベーションを高める工夫が必要。クラス担任や系主任だけではなく、総合的な支援体制を高める。
15	以前よりも支援体制の強化を感じることができた。大いに期待したい。
16	elearningが必要。
17	病院でカルテの共用が行われている。学生のデータベースを作成してほしい。
18	自ら目的意識を持たせることが大前提ではあるが、支援を強化していくには、就職支援センターと担任との協力体制が必要。
19	教職の観点からはまだ不十分ではないか。
20	学生の就職への取組みがスムーズになるように教職員の連携が大切ではないか。
21	無回答 5名

3. 初年時教育（導入教育）やGPAなど、今後のFD活動の中で取り上げていくテーマとして、特に重要と思われる項目欄に○印（複数選択可）をつけ、空欄に関連するご意見をご記入下さい。

票数順

アンケート項目	選択数
入学者の基礎学力把握	11
補習教育（リメディアル教育）	8
専門教育に向けた基礎的知識・技能教育	7
卒業生の社会的評価	5
スタディ・スキルの教育	3
GPAシステム	3
ディプロマポリシー	3
カリキュラムポリシー	2
ステューデント・スキルの教育	2
学習ポートフォリオ	2
アドミッションポリシーの見直し	2
その他	0

コメント

1	本日論議された「入学者の基礎学力把握(全員試験)」→「クラス分け」「補習教育(リメディアル教育)」が必要と感じる。ただし、これに合わせたカリキュラム編成、単位、選択必修など、難しい問題は多くあると思われる。GPAのよい点は、「きめ細やかな成績評価」「ほぼ全世界共通認識の成績表示」「マークシートのコストや面倒がなくなる」「成績入力が簡単」「成績入力ミス減少」などいろいろある。ぜひ、4年制大学も含めて、全学的に正式実施されることを望む。
2	事前に打ち合わせがあるとよい。
3	基礎学力の向上が課題となるが、個々を自信をもたせるためには、時間をかけた対応が必要ではないか。
4	基礎学力を把握した上で、専門科目の知識が加わった方が実力がつくのではないだろうか。
5	参加型の学習形態をさらに増やしてはどうだろうか。
6	算数をやってください。
7	第7回に及んだFD研修会の効果に敬意を表したい。
8	実質的な討議がなされ、よい研修会であった。追加的な感想ですが、講堂での授業で、先生や講師の話に集中しない学生が相当数いることです。最近、アメリカで、重要視されている「聞く教育」の徹底をはかることが大切である。
9	無気力な学生と意欲的にさせるというのは教育の永遠のテーマである。
10	水準に達しない学生は卒業させない判断も必要ではないだろうか。
11	専門的な教育を行うことより、高校までに苦手だった科目を学ぶことができる。FD研修会をもう少し短くしてほしい。
12	入学生の実態をいかに把握するかが、成果(卒業時)につながると思われる。
13	中学3年生までの教育内容を導入教育などに取り入れてはどうか。
14	無回答 12名

【編集】 金沢学院短期大学 FD委員会
【発行日】 平成22年5月31日